

令和7年度

授 業 概 要

学校法人 穴吹学園

専門学校 穴吹リハビリテーションカレッジ

理学療法学科

校訓

日
々
是
是
前
進

穴吹夏次

目 次

令和7年度 カリキュラム

令和7年度	1
-------------	---

令和7年度 授業概要

基礎分野

科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	3
----------------------------	---

専門基礎分野

人体の構造と機能及び心身の発達	13
-----------------------	----

疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	23
---------------------------	----

保健医療福祉とリハビリテーションの理念	37
---------------------------	----

専門分野

基礎理学療法学	40
---------------	----

理学療法管理学	46
---------------	----

理学療法評価学	47
---------------	----

理学療法治療学	53
---------------	----

地域理学療法学	72
---------------	----

臨床実習	75
------------	----

令和7年度

カリキュラム

3年制理学療法学科カリキュラム(令和5年度・6年度入学生対象)

分野	教育内容	授業科目	単位数	単位時間	1年		2年		3年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野 14単位	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解 14単位 令和7年度	心 理 学	2	15	30					
		情 報 科 学	1	30	30					
		生 化 学	2	15	30					
		統 計 学	2	15			30			
		人 間 工 学	1	30		30				
		物 理 学	1	30	30					
		コミュニケーション論	1	30	30					
		英 語	2	15			30			
		人 間 育 成 学 I	1	30	30					
		人 間 育 成 学 II	1	30			30			
	基 礎 分 野 合 計		14		180	30	90	0	0	0
専門基礎分野 30単位	人体の構造と機能 及び心身の発達 12単位	解 剖 運 動 学 I	2	30	60					
		解 剖 運 動 学 II	2	30	60					
		解 剖 生 理 学 I	3	30	90					
		解 剖 生 理 学 II	3	30	90					
		解 剖 学 実 習	1	30		30				
		人 間 発 達 学	1	30		30				
		小 計	12		300	60	0	0	0	0
	疾病と障害の成り 立ち及び回復過程 の促進 14単位	臨 床 心 理 学	1	30		30				
		一 般 臨 床 医 学	2	30		60				
		リハビリテーション診断学	2	30			60			
		リハビリテーション整形外科学	2	30		60				
		リハビリテーション神経学	2	30		60				
		リハビリテーション内科学	2	30		60				
		精 神 医 学	1	30		30				
		小 児 科 学	1	30		30				
		老 年 学	1	30			30			
		小 計	14		0	330	90	0	0	0
	保健医療福祉と リハビリテーションの 理念 4単位	リハビリテーション医学概論	2	15	30					
		理 学 療 法 概 論	1	30		30				
		保 健 医 療 福 祉 論	1	30			30			
		小 計	4		30	30	30	0	0	0
	専 門 基 礎 分 野 合 計		30		330	420	120	0	0	0

※講義、演習は15～30時間で1単位。 実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

※演習を含む講義:45時間2単位。 臨床実習:45時間1単位

3年制理学療法学科カリキュラム(令和5年度・6年度入学生対象)

分野	教育内容	授業科目	単位 数	単位 時間	1年		2年		3年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門分野	基礎理学療法学 6単位	基礎理学療法学Ⅰ	1	30			30			
		基礎理学療法学Ⅱ	1	30			30			
		基礎理学療法学Ⅲ	1	30			30			
		基礎理学療法学Ⅳ	1	30			30			
		日常生活活動学	1	30			30			
		理学療法研究論	1	30				30		
		小計	6		0	0	150	30	0	0
	理学療法管理学 令和7年度	理学療法管理学	2	15					30	
		小計	2		0	0	0	0	30	0
	理学療法評価学 6単位	理学療法評価学Ⅰ	2	30		60				
		理学療法評価学Ⅱ	2	30			60			
		理学療法評価学Ⅲ	1	30				30		
		動作分析セミナー	1	30				30		
		小計	6		0	60	60	60	0	0
	理学療法治療学 20単位	運動療法学	3	30			90			
		物理療法学	1	30				30		
		義肢装具学Ⅰ	1	30			30			
		義肢装具学Ⅱ	1	30				30		
		整形外科疾患の理学療法Ⅰ	2	30				60		
		整形外科疾患の理学療法Ⅱ	2	30				60		
		整形外科疾患の理学療法Ⅲ	1	30				30		
		中枢神経疾患の理学療法Ⅰ	2	30				60		
		中枢神経疾患の理学療法Ⅱ	1	30				30		
		内部障害の理学療法Ⅰ	1	30				30		
		内部障害の理学療法Ⅱ	1	30				30		
		内部障害の理学療法Ⅲ	1	30				30		
		発達障害の理学療法	1	30				30		
		ペーパーペーシェントセミナー	2	30					60	
		小計	20		0	0	120	420	60	0
	地域理学療法学 3単位	地域理学療法学	1	30				30		
		生活環境学Ⅰ	1	30			30			
		生活環境学Ⅱ	1	30				30		
		小計	3		0	0	30	60	0	0
	臨床実習 21単位	見学実習	1	45		45				
		評価実習Ⅰ	2	45			90			
		評価実習Ⅱ	2	45				90		
		総合臨床実習Ⅰ	8	45					360	
		総合臨床実習Ⅱ	8	45						360
		小計	21		0	45	90	90	360	360
	専門分野合計		58		0	105	450	660	450	360

総合計	102	3195	510	555	660	660	450	360
-----	-----	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----

※講義、演習は15～30時間で1単位。 実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

※演習を含む講義:45時間2単位。 臨床実習:45時間1単位

令和7年度

授 業 概 要

科学的思考の基盤

人間と生活

社会の理解

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
心理学		理学療法学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	大久保 智生
授業の概要				
心理学の各領域について概説し、心理学の基礎的知識を習得する。 前半（第2回～第8回）は、心理学の基礎について概説し、後半（第9回～第13回）は、身近な心に関する問題からわかりやすく解説していく予定である。				
授業終了時の到達目標				
心理学の基礎に触れることを通じて、人間理解の方法を深める。また、心に関する様々な問題に対して、多角的な視点からの思考を可能にする。				
時間外に必要な学修				
前回配布の資料を読み直すこと。				
回	テーマ	内 容		
1	ガイダンス	心理学を学ぶことの目的 心理学の各領域の研究紹介		
2	心理学とは	知覚心理学、学習心理学、発達心理学、性格心理学、自己心理学、家族心理学、社会心理学の説明		
3	記憶	知覚すること、図と地、錯視、知覚の主観性 物理的環境と心理的環境		
4	知覚	記憶のメカニズム、記憶の変容、想起時につくられる記憶、自伝的記憶、偽の記憶		
5	心理測定	心理測定とは 心理測定の種類		
6	犯罪	犯罪心理学とは、プロファイリングとは 犯罪別の心理学		
7	性格	性格を捉える、性格の形成と変容に関する理論 性格の形成要因		
8	学習	学習の重要性、新たな行動様式の学習メカニズム やる気と無気力		
9	動機づけ	生理的動機づけ、社会的動機づけ 社会的動機：達成動機づけ、内発的動機づけなど		
10	認知、目撃証言	犯罪目撃証言の信頼性について		
11	いじめ、ハラスメント	いじめの定義と類型、いじめの集団力学 ハラスメントとは、ハラスメントの35種類		
12	学力低下、虐待	学力低下問題における指摘、学校問題と非学校問題 虐待の種類、虐待経験がもたらすもの		
13	対人関係、対人認知	対人認知について コミュニケーションと対人行動		
14	適応	適応と不適応		
15	発達	発達とは、発達段階と発達課題 発達移行期、文化と発達期待		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・実践をふりかえるための教育心理学 （ナカニシヤ出版）		期末試験	100%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
情報科学		理学療法学科／1年	2024／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	井内 健二
授業の概要				
「情報」の意味および価値を理解するとともに、一般情報のデジタル化、さらにデジタル化された情報をIT（Information Technology）を使って有効な形態に加工し活用する技術を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
業務上のレポート作成、データ集計資料作成、Web上での情報検索、プレゼンテーション資料作成など情報活用技術全般の基礎を習得する。				
時間外に必要な学修				
テキストの予習と復習し練習問題を自習すること。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	授業内容の紹介、フォルダ作成と圧縮ファイルの解凍法		
2	Wordの基礎知識 文字の入力	ミカタイプの使い方、タイピング練習、文字入力の練習と確認、IMEについて		
3	文書の作成	ページ設定、文章を入力、あいさつ文の挿入、記書きの入力		
4	文書の作成	範囲を選択、文字を削除・挿入、文字をコピー・移動、文字の配置、インデント、段落番号、フォントの設定、上書き保存、印刷		
5	表の作成	表の作成、表の範囲を選択、表のレイアウト変更、表に書式を設定、表にスタイルを適用、段落罫線を設定		
6	文書の編集	均等割り付け、囲い文字、ルビ、文字の効果、書式のコピー・貼り付け、行間、タブとリーダー、段組みの設定		
7	表現力をアップする機能 Excelの基礎知識	テーマを適用、ワードアートを挿入、ワードアートのサイズ変更と移動、画像の挿入、図形を作成、アイコンの挿入、ページ罫線を設定		
8	Excelの基礎知識 データの入力、表の作成	Excelの起動、EXCELのが画面構成、エクセルの表示モード、シートの挿入、切り替え、削除、データの入力、数式の入力と再計算		
9	数式の入力 表の印刷	データの編集、セル範囲を選択、ブックを上書き保存、印刷、オートフィルを利用		
10	表の作成	関数を入力、罫線や塗りつぶし、表示形式、配置、文字の書式、列の幅や行の高さを設定、行を削除・挿入、列の非表示・再表示		
11	表の作成	いろいろな関数を利用、相対参照と絶対参照を使い分ける 名前を付けて保存、印刷		
12	PowerPointの基礎知識 基本的なプレゼンテーションの作成	PowerPointの基礎知識、PowerPointの画面構成、新しいプレゼンテーションを作成、プレースホルダを操作、新しいスライドを挿入、箇条書きテキストを入力、文字や段落に書式を設定、プレゼンテーションの構成を変更、スライドショーを実行、保存		
13	表の作成 グラフの作成	表の作成、行列を操作、表に書式を設定、名前を付けて保存、グラフの作成、グラフのレイアウトの変更、グラフに書式を設定、グラフのもとになるデータを修正		
14	図形やSmartArtグラフィックの作成 ワードアートの挿入	図形を作成、図形に書式を設定、SmartArtグラフィックを作成、SmartArtグラフィックに書式を設定、箇条書きテキストをSmartArtグラフィックに変換、名前を付けて保存、画像、アイコン、ワードアートを挿入		
15	特殊効果の設定 プレゼンテーションをサポートする機能	アニメーション、画面の切り替えの効果を設定、印刷レイアウト、スライドを効率的に切り替、スライドショーを実行		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
よくわかる Word 2021 基礎 (POM出版)		課題・レポート	100%	
よくわかる Excel 2021 基礎				
よくわかる Power Point 2021 基礎				

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生化学		理学療法学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	宇山 徹・佐々木 すみれ
授業の概要				
生物は絶えず何かしらの反応を生体内で行っており、そこには多様な分子が関与している。生化学の授業では、生体内での生命現象を分子レベル、つまりタンパク質や遺伝子がどのように制御されているのかを学ぶ事を目的とする。また、糖質、脂質やビタミンなどの分子についても理解を深める。				
授業終了時の到達目標				
生化学の授業の内容に沿った試験を行うことで、個人の生化学の授業の理解度を高める。				
時間外に必要な学修				
前回配布の資料を読み直すこと。				
回	テーマ	内 容		
1	細胞の構造	細胞の基本骨格である細胞膜や核などの構造について学ぶ		
2	細胞骨格	細胞の構造を維持している細胞内タンパク質などについて学ぶ		
3	細胞の増殖、死およびアミノ酸の性質	細胞の増殖や死がどのように制御されているかを学ぶ また、タンパク質を構成しているアミノ酸についても学ぶ		
4	たんぱく質の構造、核酸、糖類について	タンパク質の基本構造、DNAを構成している核酸、グルコースなどに代表される糖質について学ぶ		
5	核酸、糖質、脂質について	核酸、糖質、脂質の構造や機能などについて学ぶ		
6	脂質、酵素、ビタミンについて	脂質やビタミンについて学ぶ また、生体内での反応を触媒する酵素について学ぶ		
7	酵素、ビタミン、ホルモンについて	酵素、ビタミン、内分泌に関わるホルモンについて学ぶ		
8	ホルモン、輸送たんぱく質、受容体について	ホルモン、物質の輸送に関わる輸送タンパク質、細胞外からの刺激を細胞内へと伝達する受容体などについて学ぶ		
9	受容体たんぱく質、防御たんぱく質（免疫）について	受容体タンパク質、免疫や生体防御に関わる防御タンパク質について学ぶ		
10	防御たんぱく質、構造たんぱく質について	防御タンパク質、細胞-細胞間を構成する細胞外マトリックスなどに存在する構造タンパク質について学ぶ		
11	遺伝子の構造、DNAの複製	遺伝子やDNAの意味、細胞分裂時にDNAが複製される機構について学ぶ		
12	DNAの複製、染色体、細胞分裂について	DNAの複製、染色体の構造と細胞分裂との関係などについて学ぶ		
13	転写、翻訳、細胞分裂について	遺伝子からRNAが転写される機構について学ぶ		
14	たんぱく質への翻訳	RNAからタンパク質がどのように翻訳されるかについて学ぶ		
15	今までの講義の演習問題	今まで行ってきた講義内容に関連する選択問題や記述問題を実施する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
はじめの一步イラスト生化学・分子生物学（羊土社）		期末試験	100%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
統計学		理学療法学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	菅原 健太郎
授 業 の 概 要				
臨床や研究に必要な統計知識を身に付ける。				
授業終了時の到達目標				
統計学の知識を有した状態で論文抄読が可能となり、自身も統計学を利用してデータ分析ができる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験 学会発表経験を活かし、姿勢や動作分析をイメージしやすく授業を展開する。			
時間外に必要な学修				
前回配布の資料を読み直すこと。				
回	テ ー マ	内 容		
1	統計学の基礎	統計解析の戦略と統計処理法		
2	データの尺度・特性値・グラフ	データの尺度		
3	推定と検定の基礎	推定と検定		
4	2標本の差の検定 パラメトリック法（1）	差の検定		
5	1標本の差の検定 パラメトリック法（2）	1標本の差の検定		
6	差の検定	ノンパラメトリック法の適用		
7	相関	相関の概略		
8	回帰分析	回帰分析の概略		
9	重回帰分析	重回帰分析の概略		
10	分割表の検定	分割表の概略		
11	一元配置分散分析	一元配置分散分析の概略		
12	反復測定分散分析	反復測定分散分析の概略		
13	信頼性係数	信頼性		
14	多重ロジスティック回帰分析	多重ロジスティック回帰分析の概略		
15	診断の指標	アウトカム		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・リハビリテーション統計学（中山書店）		期末試験	100%	研究論につなげるよう学習すること。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
人間工学		理学療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	田中 裕介
授 業 の 概 要				
立位、立ち上がり動作の運動学的分析方法を身につける。				
授業終了時の到達目標				
・ ヒトの安定性に関わる因子を挙げることができる ・ 安静立位姿勢、立ち上がり動作について見るべきポイントを列挙、観察できる。 また、姿勢を文章化することが出来る。 ・ 正常歩行周期を述べる事が出来る。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 病院勤務経験を活かし、姿勢や動作分析をイメージしやすく授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
履修した解剖学（骨関節系）と運動学を復習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	人間工学の概要説明		・ 日常における人間工学の考え方の紹介 ・ 臥位から立ち上がりまでの用語説明	
2	力学①		・ つり合いの原理(モーメントについての理解)	
3	力学②		・ ベクトルの合成と分解 ・ 傾斜台での荷重量計算	
4	立位姿勢		・ 基本姿勢における重心の位置 ・ 立位アライメントの確認	
5	立位姿勢の制御①		・ 重心と支持基底面との関係性	
6	立位姿勢の制御②		・ 立位時の足関節における床反力と関節モーメントとの関係性	
7	立位姿勢の制御③		・ 立位時の膝関節における床反力と関節モーメントとの関係性	
8	立位姿勢の制御④		・ 立位時の股関節における床反力と関節モーメントとの関係性	
9	立位姿勢の評価		・ 立位姿勢分析方法のポイント説明 ・ 立位分析(文章化)	
10	立ち上がり動作①		・ 立ち上がり動作での重心と支持基底面との関係	
11	立ち上がり動作②		・ 立ち上がり動作のシーケンス	
12	立ち上がり動作③		・ 立ち上がり動作の筋活動	
13	立ち上がり動作評価		・ 立ち上がり動作分析のポイント説明 ・ 立ち上がり動作分析(文章化)	
14	歩行		・ 正常な歩行周期	
15	授業のまとめ		・ 臨床でトランスファーなどでの授業内容活用方法紹介 ・ 授業全体の振り返り	
教科書・教材			評価基準	評価率
・ 基礎運動学（医歯薬出版） 基礎バイオメカニクス（医歯薬出版）			期末試験	100%
				その他
				物理学で学んだ内容を復習しておくこと

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
物理学		理学療法学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	村上 匡司
授 業 の 概 要				
国家試験問題が読解できるレベルまでの物理学基礎を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
国家試験が解ける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。			
時間外に必要な学修				
基礎物理程度の予習。				
回	テ ー マ		内 容	
1	物理学概要		① 国家試験問題との関連について、② 単位について、③ 有効数字について	
2	直線運動について（1）		① 国家試験問題との関連について、② 等速度運動について、③ 等加速直線運動について	
3	直線運動について（2）		① 国家試験問題との関連について、② 等速度運動について、③ 等加速直線運動について	
4	投射について 章末問題（第2章）		① 水平投射について、② ベクトルについて、③ 斜方投射について	
5	運動と力との関係		① 運動の三原則について、② 斜面上での運動について、③ 国家試験問題との関連について	
6	摩擦力について 章末問題（第3章）		① 静止摩擦力と動摩擦力、② 静止摩擦力の最大値、③ 摩擦係数について	
7	圧力のはたらき （復習： 圧力、大気圧）		① 圧力について、② 酸素ポンプの使用可能時間について、③ 気圧について	
8	水圧と浮力 （復習： 水圧、浮力）		① 水圧について、② 国家試験問題との関連について、③ 浮力について	
9	章末問題（第4章） 前半の復習		前半の復習	
10	モーメント モーメントのまとめ		① てこについて、② つり合いについて、③ 国家試験問題との関連について	
11	仕事について （復習： 仕事と仕事率）		① 仕事、仕事率の単位について、② 斜面の仕事について、③ 国家試験問題との関連	
12	エネルギーについて 章末問題（第5章 ①、②のみ）		① 位置エネルギーについて、② 運動エネルギーについて、③ 力学的エネルギーの保存について	
13	運動量について 章末問題（第6章 ①、②のみ）		① 力積について、② 運動量と力積との関係について、③ 運動量保存の法則について	
14	熱エネルギー 章末問題（第7章 ②、③のみ）		① 固体、液体、気体の関係について、② 熱量保存の法則について、③ 体積と温度、圧力との関係について	
15	波の性質について 章末問題（第8章 ①のみ）， まとめ		① 波をつくっているものについて、② 周期と振動数について、③ 横波と縦波について	
教科書・教材			評価基準	評価率
まるわかり！基礎物理（南山堂）			期末試験	100%
				グループで学習する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
コミュニケーション論		理学療法学科／1年	2024／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	坂口 千恵美
授 業 の 概 要				
P Tとして、実習に出るまで、また臨床で働くまでに必ず身に付けるべきコミュニケーションスキルや社会人としてのマナーなどを修得する。				
授業終了時の到達目標				
・ 自己肯定感の高い、心身ともに健康な医療人となる。 ・ 主体性をもって行動できる、自律した医療人になる。 ・ 基本的な臨床技能としてのコミュニケーション力を身に付けた医療人になる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験			
時間外に必要な学修				
学内で挨拶や他クラスの学生へのコミュニケーションをスムーズに取れるように心がける。 社会人としてのマナーやモラルを常に心がけ日常生活を送る				
回	テ ー マ	内 容		
1	コミュニケーションとは	・ PTに必要なコミュニケーション力とは		
2	基本的な立ち居振る舞い、言葉遣い	・ 正しい挨拶のルール ・ 敬語の使い方		
3	コミュニケーション実践編① 聞くスキル、質問のスキル	・ 傾聴のポイント、頷き、相づち ・ オープンクエスチョン、クローズドクエスチョン		
4	コミュニケーション実践編② 伝えるスキル	・ Iメッセージ、YOUメッセージ ・ 許可を得るための枕詞		
5	コミュニケーション実践編③ 観察のスキル	・ みる力を養う為に ・ 観察した事を記録・報告する		
6	自己実現のための方法を学ぶ	・ 目標達成のための自己管理 ・ 行動目標と行動目標		
7	社会人の常識①	・ 上座、下座等社会人としての一般的なマナー		
8	社会人の常識②	・ T P Oに合わせた服装、言葉づかい		
9	社会人の常識③	・ 手紙の書き方 ・ 電話の掛け方、受け方		
10	臨床で役立つコミュニケーション スキル①	・ 医療面接とはなにか ・ 医療面接での対話のしかた		
11	臨床で役立つコミュニケーション スキル②	・ 相手との関係を築く方法 ・ 質問の仕方		
12	臨床で役立つコミュニケーション スキル③	・ 相手を会話に乗せる方法		
13	臨床で役立つコミュニケーション スキル④	・ 相手から話を引き出す方法（聴く技術）		
14	臨床で役立つコミュニケーション スキル⑤	・ 認知症のかたとのコミュニケーション ・ スーパーバイザーとのコミュニケーション		
15	まとめ	・ 期末試験対策 ・ 国試過去問など		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100%	提出物は必ず切厳守 すること

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
英語		理学療法学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	坂口 千恵美
授 業 の 概 要				
理学療法士の臨床業務で使用頻度の高い医学英語について、「意味を理解する」「スペルを正確に書ける」「医療職の共通言語として使用できる」ことを目指す。				
授業終了時の到達目標				
・ 理学療法士が臨床業務で使用する基本的な医学英語を使用することができる。 ・ カルテや文献に書かれている医学英語を理解することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修				
文献や論文に出てくる医学英語をその都度調べることを習慣づける。				
回	テ ー マ		内 容	
1	【語彙】人体の基礎知識① 【会話】挨拶		・ 人体の区分。位置についての英単語を学ぶ。 ・ 初回の挨拶	
2	【語彙】人体の基礎知識② 【会話】問診		・ 頭部・顔面・上肢・下肢のパーツの英単語を学ぶ。 ・ 痛みの部位、種類、経緯を聞く	
3	【語彙】人体の基礎知識③ 【会話】肢位設定		・ 関節の運動方向・肢位を学ぶ。 ・ 基本的肢位の指示、応用的な肢位の指示	
4	【語彙】人体の構造① 【会話】評価①		・ 主要な骨・関節の名称の英単語を学ぶ。 ・ バイタルサインの確認	
5	【語彙】人体の構造② 【会話】評価②		・ 主要な上肢・下肢・体幹の筋名を学ぶ。 ・ 自動可動域、他動可動域の測定	
6	【語彙】人体の構造③ 【会話】評価③		・ 関節の運動方向を英語で学ぶ。 ・ 体幹と頸部の可動域の測定	
7	【語彙】人体の構造④ 【会話】評価④		・ 内臓器・脳神経の名称を英語で学ぶ。 ・ 筋力測定、感覚検査	
8	【語彙】医療の略語 【会話】評価⑤		・ カルテに記載されている略語の意味と使い方 ・ バランス検査、歩行評価	
9	【語彙】症候・徴候① 【会話】治療①		・ 一般的な症候・徴候を学ぶ。 ・ ホームエクササイズの指導	
10	【語彙】症候・徴候② 【会話】治療②		・ 脳・内臓器の症候・徴候を学ぶ。 ・ RICE処置の指導	
11	【語彙】疾病・創傷① 【会話】ADL①		・ 骨・筋・関節の痛みについて学ぶ。 ・ 移乗動作の指導	
12	【語彙】疾病・創傷② 【会話】ADL②		・ 脳・内臓器の疾病・創傷を学ぶ。 ・ 食事の評価と指導	
13	【語彙】介護・医療機器 【会話】環境整備		・ 車椅子・歩行補助用具・ベッド ・ 適切な歩行補助用具の選択、自宅トイレの改修	
14	【語彙】診察・治療と療法・薬剤 【会話】退院指導		・ 一般的な検査、治療と療法、リハに関連する薬剤 ・ 退院後の生活指導	
15	まとめ・確認テスト		まとめ・復習・知識の定着	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
PT・OTが書いた「リハビリテーション英会話（メジカルビュー社）」		期末試験	100%	発音、会話練習は積極的に声を出す

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
人間育成学Ⅰ		理学療法学科／1年	2024／前期	演習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	1単位（30時間）	必須	中嶋 志保	
授 業 の 概 要					
専門課程の学びが始まるとともに、職業人・社会人としての在り方についても意識することを促す。単に国家試験合格や就職を目的とするのではなく、「自分が何を大切にして、どのような存在になりたいか」を考える。					
授業終了時の到達目標					
・医療人としての資質、人間性、社会的マナーを理解する。 ・自己省察や職業観の醸成を通して、理学療法士の仕事への興味が深まる。 ・自らの思いや不安をクラスメイトと共有することができる。					
実務経験有無		実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験 問題解決のための自己学習プロセスを教示し、情報共有についても言及する。				
時間外に必要な学修					
普段から周辺の病院や施設に関心を持ち、特徴や役割について自ら情報を集める。					
回	テ ー マ		内 容		
1	キャリアとは		キャリア、キャリアデザインとは		
2	職業理解①		理学療法士の働く職場と役割 多職種との関わり		
3	職業理解②		発表		
4	職業理解③		先輩の話を聞く		
5	職業理解④		医療職に必要な資質とは		
6	自己洞察①		自分の価値観、強みとは 自己分析のワーク		
7	理学療法過程の経験①		オリエンテーション 模擬症例の提示		
8	理学療法過程の経験②		症例の疾患調べ		
9	理学療法過程の経験③		グループ内レクチャー 問診項目の列挙と問診の実施		
10	理学療法過程の経験④		評価項目列挙		
11	理学療法過程の経験⑤		評価手技のグループ内レクチャー		
12	理学療法過程の経験⑥		発表		
13	職業理解⑤		職業イメージとの合致、不一致について		
14	自己洞察②		振り返りと自己の課題 他者からのフィードバック		
15	キャリアプラン		仕事を通してどのような存在になりたいか 目標を達成するために必要なこと		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
・PT・OTビジュアルテキスト 専門基礎 運動学（羊土社） ・配布資料			提出物 発表、授業への取り組み	50% 50%	2年生と積極的に コミュニケーション をとること

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
人間育成学Ⅱ		理学療法学科／2年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	菅原 健太郎
授 業 の 概 要				
・医療人としての人間性、資質を培う。 ・問題解決のための自己学習の手続きを学ぶ。 ・1年生への知識・技術の伝達を通し、自分のそれらのスキルアップを図る。				
授業終了時の到達目標				
・医療人としての資質、人間性、社会的マナーを習得する。 ・評価実習Ⅰへの参加レベルの知識・技術を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験。 問題解決のための自己学習プロセスを教示し、情報共有についても言及する。			
時間外に必要な学修				
評価学、解剖学・運動学の教科書や授業資料を再読し復習しておくこと。				
回	テ ー マ		内 容	
1	周辺施設へ見学①		リハビリセンターで施設を見学	
2	周辺施設へ見学②		リハビリセンターで施設を見学	
3	周辺施設へ見学③		リハビリセンターで施設を見学	
4	周辺施設へ見学④		リハビリセンターで就労支援を見学	
5	周辺施設へ見学⑤		リハビリセンターで就労支援を見学	
6	周辺施設へ見学⑥		リハビリセンターで就労支援を見学	
7	理学療法過程の経験①		オリエンテーション	
8	理学療法過程の経験②		模擬症例の提示	
9	理学療法過程の経験③		症例の疾患調べ	
10	理学療法過程の経験④		グループ内レクチャー	
11	理学療法過程の経験⑤		問診項目の列挙と問診の実施	
12	理学療法過程の経験⑥		評価項目列挙	
13	理学療法過程の経験⑦		評価手技のグループ内レクチャー	
14	理学療法過程の経験⑧		発表	
15	振り返り		総括	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
各種書籍、資料等		提出物 発表、授業への取り組み	50% 50%	施設見学は礼儀や マナーを心がける こと。

人体の構造と機能及び 心身の発達

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖運動学Ⅰ		理学療法学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	中嶋 志保
授 業 の 概 要				
四肢及び体幹の機能解剖について理解し、運動療法や動作分析に必要な基本的事項を学習する。				
授業終了時の到達目標				
・ 主要な関節について関節構成体の構造と機能を理解する。 ・ 関節運動について、作用する筋および運動を正しい用語で説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 正常運動理論を臨床でどのように活用するかを交えながら授業を展開する。			
時間外に必要な学修				
解剖運動学Ⅱの内容と併せて復習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	骨格概要		骨格を構成する骨の名称	
2	骨の構造		骨の役割と分類 骨の基本構造	
3	関節の構造と機能①		関節の分類	
4	関節の構造と機能②		滑膜性連結の基本構造	
5	関節運動の表現		方向と位置を表す用語 運動の面と軸	
6	骨格筋の構造と機能①		骨格筋の基本構造 骨格筋の収縮	
7	骨格筋の構造と機能②		単関節筋と二関節筋 筋収縮の種類	
8	上肢帯、肩関節の構造と機能①		上肢帯、肩関節を構成する骨 関節構造	
9	上肢帯、肩関節の構造と機能②		腱板の機能 第2肩関節の構造と機能	
10	上肢帯、肩関節の構造と機能③		肩関節の運動と筋	
11	肘関節の構造と機能①		肘関節を構成する骨 関節構造	
12	肘関節の構造と機能②		肘関節の運動と筋	
13	手関節の構造と機能①		手関節、手部を構成する骨 関節構造	
14	手関節の構造と機能②		手関節の運動と筋 指関節の運動と筋	
15	手関節の構造と機能③		手のアーチ 指の変形	

回	テ ー マ	内 容		
17	股関節の構造と機能①	下肢帯総論 アライメントと各指標		
18	股関節の構造と機能②	股関節を構成する骨 関節構造		
19	股関節の構造と機能③	股関節の運動と筋 股関節のバイオメカニクス		
20	膝関節の構造と機能①	膝関節を構成する骨 関節構造		
21	膝関節の構造と機能②	関節包、靱帯による運動制御		
22	膝関節の構造と機能③	膝関節の運動と筋		
23	足関節の構造と機能①	足関節、足部を構成する骨 関節構造		
24	足関節の構造と機能②	足関節の運動と筋 足のアーチ		
25	脊柱総論	脊柱の構造と運動		
26	頸椎の構造と機能	頸椎の構造 頸椎の関節と運動		
27	胸椎および胸郭の構造と機能	胸椎、胸郭の構造 呼吸運動		
28	腰椎の構造と機能	腰椎の構造 腰椎の関節と運動		
29	骨盤の構造と機能	骨盤帯の構造 骨盤帯の運動、腰椎と骨盤帯の関係		
30	まとめ	振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ PT・OTビジュアルテキスト 専門基礎 運動学（羊土社） ・ 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院）		中間試験 期末試験	50% 50%	用語を正しく覚え、使えるようにしましょう

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖運動学Ⅱ		理学療法学科／1年	2024／前期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	田中 裕介
授 業 の 概 要				
体表面に骨や筋の位置や走行を投影し、触察できるようになる。				
授業終了時の到達目標				
上肢・下肢・体幹の骨と関節を触察できる。 上肢・下肢・体幹の筋を触察できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 治療で活用してきた触診技術を学生がイメージしやすく授業を展開する。			
時間外に必要な学修				
筋を触察する上で、起始・停止・走行・作用を頭に入れて置くことが重要である。				
回	テ ー マ		内 容	
1	・ 触察のための基本技術と注意事項 ・ 肩甲骨（後面）の触察		・ 触診の基礎と技術・肩甲骨（後面）のランドマークの名称 ・ 肩甲骨（後面）の各ランドマークの触察実習	
2	・ 鎖骨の触察 ・ 上腕骨の触察		・ 鎖骨、上腕骨のランドマークの名称 ・ 鎖骨、上腕骨の各ランドマークの触察実習	
3	・ 烏口突起、上腕骨近位部の骨指標の触察		・ 烏口突起、三角筋粗面、大結節、小結節、結節間溝の触察	
4	・ 肩関節周囲筋の触察		・ 三角筋、僧帽筋（上部、中部、下部）、広背筋、大円筋の触察	
5	・ 肩回旋筋群の触察		・ 棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋の触察	
6	・ 肩甲骨の挙上・上方・下方回旋筋の触察		・ 大菱形筋、小菱形筋、肩甲挙筋、前鋸筋の触察	
7	・ 上腕骨及び肩甲骨から体幹に付着する筋の触察		・ 大胸筋（鎖骨部、胸骨部、腹部線維）、小胸筋、鎖骨下筋の触察	
8	・ 上腕部の筋群の触察		・ 上腕二頭筋（長頭・短頭）、上腕筋、烏口腕筋、上腕三頭筋の触察	
9	・ 前腕の骨指標の触察		・ 上腕骨上顆、上顆稜・尺骨の触察（肘頭、肘頭窩、尺骨体、尺骨茎状突起）・橈骨の触察（橈骨頭、橈骨骨幹、橈骨茎状突起、リスター結節）	
10	・ 手根骨と中手骨の触察		・ 豆状骨、三角骨、有鉤骨、舟状骨、大菱形骨、小菱形骨、有頭骨、月状骨の触察・中手骨の触察	
11	・ 前腕伸筋群の触察		・ 肘筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋、総指伸筋、尺側手根伸筋、小指伸筋、示指伸筋の触察 ・ 母指の動きと主働作筋 ・ 長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋の触察	
12	・ 前腕屈筋群の触察		・ 腕橈骨筋、円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、浅指屈筋、深指屈筋の触察	
13	・ 母指球筋の触察 ・ 小指球筋の触察		・ 母指対立筋、短母指外転筋、短母指屈筋、母指内転筋の触察 ・ 小指外転筋、小指屈筋、小指対立筋の触察 ・ 虫様筋、掌側・背側骨間筋の作用の理解	
14	・ 骨盤・下肢の骨指標の触察		・ 骨盤、大腿骨、下腿骨の骨指標の確認と説明	

回	テ ー マ	内 容
15	・ 胸骨、肋骨の触察	・ 胸骨（胸骨柄、胸骨体、剣状突起）の触察 ・ 肋軟骨、肋骨の触察
16	・ 脊柱起立筋群の触察	・ 棘筋、最長筋、腸肋筋、多裂筋の触察
17	・ 頸部、後頭部の筋群の触察 ・ 腰部、腹部の筋群の触察	・ 頭板状筋、後頭筋群の触察・腰方形筋、腹直筋、内・外腹斜筋、横隔膜、肋間筋の触察
18	・ 頭部の骨指標の触察 ・ 気管、甲状軟骨、舌骨の触察	・ 外後頭隆起、上項線、乳様突起、頬骨弓、茎状突起、下顎角、下顎枝、下顎頭、筋突起の触察・輪状軟骨、甲状軟骨、舌骨の触察
19	・ 頭部、頸部筋群の触察 ・ 頸部の動脈と分泌腺の触察	・ 胸鎖乳突筋、斜角筋、咬筋、側頭筋、舌骨上・舌骨下筋群の触察 ・ 総頸動脈、側頭動脈、顔面動脈の触察 ・ 耳下腺、顎下腺、甲状腺の触察
20	・ 骨盤の骨指標の触察 ・ 大転子の触察 ・ 骨盤の靱帯の触察	・ 上前腸骨棘、下前腸骨棘、腸骨稜、腸骨窩、上後腸骨棘、坐骨結節、仙骨、尾骨、恥骨、仙腸関節の触察 ・ 大転子の触察
21	・ 大腿前面の筋群の触察	・ 内転筋群（恥骨筋、長内転筋、大内転筋、薄筋）の触察 ・ 縫工筋、大腿筋膜張筋、腸脛靱帯、大腿四頭筋の触察
22	・ 腸骨筋、大腰筋の触察	・ 腸骨筋、大腰筋の触察
23	・ 大腿後面の筋群の触察・後膝窩部の触察・鵞足を構成する筋群の触察	・ 大腿二頭筋、半腱・半膜様筋、膝窩筋の触察 ・ 後膝窩部の筋群の位置関係の確認・鵞足の触察
24	・ 膝関節の骨指標と靱帯の触察 ・ 足関節と足部の骨指標と靱帯の触察	・ 膝蓋骨、脛骨体、脛骨粗面、脛骨高原、関節裂隙、腓骨頭、大内転筋結節の触察、足根骨と中足骨の触察
25	・ 下腿後面の筋群の触察	・ 腓腹筋、足底筋、ヒラメ筋、後脛骨筋、長母趾屈筋、長趾屈筋の触察
26	・ 足底部の筋群の触察	・ 母趾外転筋、小趾外転筋、短趾屈筋
27	まとめ	上肢
28	まとめ	下肢
29	まとめ	下肢
30	まとめ	体幹
教科書・教材		評価基準
・ 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院） ・ プロメテウス解剖学コアアトラス（医学書院）		期末試験
		評価率
		100%
		その他
		定期的に小テストを実施する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖生理学 I		理学療法学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位（90時間）	必須	横川 光代・宮内 貴志子
授 業 の 概 要				
神経系（中枢神経系および末梢神経系）の構造（つくり）および機能（はたらき）について教授する。				
授業終了時の到達目標				
神経系の仕組みを理解し、人間が外界の刺激を感じ、学習し、運動する仕組みが説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	横川 光代・宮内貴志子：理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。			
時間外に必要な学修				
授業中に提示される重要ポイントおよびキーワードの復習をすること				
回	テ ー マ		内 容	
1	神経系総論（1）		神経系の区分と全体像	
2	神経系総論（2）		神経細胞の基本的構造と白質・灰白質	
3	中枢神経系総論（1）		大脳の構造と機能 前頭葉	
4	中枢神経系総論（2）		大脳の構造と機能 側頭葉	
5	中枢神経系総論（3）		大脳の構造と機能 頭頂葉	
6	中枢神経系総論（4）		大脳の構造と機能 後頭葉、頭蓋骨の骨格	
7	中枢神経系総論（5）		大脳辺縁系の構造と機能	
8	中枢神経系総論（6）		大脳基底核の構造と機能	
9	中枢神経系総論（7）		間脳、中脳の構造と機能	
10	中枢神経系総論（8）		橋、延髄の構造と機能	
11	中枢神経系総論（9）		橋、延髄の構造と機能	
12	中枢神経系総論（10）		小脳の構造と機能	
13	中枢神経系総論（11）		小脳の構造と機能	
14	中枢神経系総論（12）		活動電位、シナプス伝達、神経伝達物質について	
15	まとめ		中枢神経系のまとめ	
16	脊髄と脊椎の構造		脊髄の構造と機能	
17	脳室と脳脊髄液		脳脊髄液の産生と流れ	
18	脳循環		脳の動脈と静脈の流れ	
19	脊髄反射		脊髄反射の構造	
20	末梢神経系（1）		末梢神経系の構造と機能概要	
21	末梢神経系（2）		自律神経系の構造と機能	
22	末梢神経系（3）		自律神経系の機能（交感神経と副交感神経）	
23	末梢神経系（4）		脳神経の構造	

回	テ ー マ	内 容		
24	末梢神経系（５）	各脳神経の機能		
25	末梢神経系（６）	各脳神経の機能		
26	末梢神経系（７）	各脳神経の機能		
27	感覚器系（１）	深部感覚の受容器と伝導路		
28	感覚器系（２）	関節の感覚器の構造と機能		
29	感覚器系（３）	特殊感覚と脳神経		
30	感覚器系（４）	特殊感覚と脳神経		
31	感覚器系（５）	平衡聴覚器の構造と機能		
32	上行性伝導路	温痛覚 深部感覚などの経路		
33	下行性伝導路	錐体路 錐体外路系		
34	脊髄神経（１）	腰部の神経 腕神経叢		
35	脊髄神経（２）	胸部の神経		
36	脊髄神経（３）	腰部の神経 大腿神経叢 仙骨神経叢		
37	脊髄神経（４）	上肢の神経支配		
38	脊髄神経（５）	下肢の神経支配		
39	脊髄神経（６）	下肢の神経支配		
40	神経系のまとめ	中枢神経と末梢神経のつながり		
41	神経系のまとめ	中枢神経と末梢神経のつながり		
42	神経系のまとめ	中枢神経と末梢神経のつながり		
43	神経系のまとめ	感覚と運動のつながり		
44	神経系のまとめ	感覚と運動のつながり		
45	神経系のまとめ	振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院） ・ リハビリテーションテキスト 生理学 （メディカルビュー社）		期末試験 確認テスト	40% 60%	繰り返しの自己学習が大切です。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖生理学Ⅱ		理学療法学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位（90時間）	必須	宮内 貴志子
授 業 の 概 要				
内部障害に対し理学療法を行うための基礎知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
・ 恒常性を保つための、各臓器の役割を説明することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 理学療法との接点を交えながら授業を展開する。			
時間外に必要な学習				
その日のうちに授業資料と教科書を見直す。資料をファイリングする。				
回	テ ー マ		内 容	
1	解剖生理学とは		これから学ぶ内容について	
2	身体の構造①		人体の外観	
3	身体の構造②		人体の内部	
4	内臓器の位置と役割		各臓器の位置関係を理解する 随意運動と不随運動	
5	血液①		血液の組成と機能①	
6	血液②		血液の組成と機能②	
7	血液③		血液の組成と機能③	
8	心臓と循環		血液の循環、心臓・血管の構造	
9	心臓の興奮と刺激伝導系		刺激伝導系と心電図	
10	血圧		血圧とその調節	
11	動脈と静脈①		全身をめぐる動脈と静脈① 大循環と小循環	
12	動脈と静脈②		全身をめぐる動脈と静脈② 腹部と脳 臓器循環	
13	動脈と静脈③		全身をめぐる動脈と静脈③ 腹部と脳 臓器循環	
14	静脈還流、リンパ循環		静脈還流量の調節 リンパ管の構造と役割	
15	振り返り①		血液 心臓 動脈 静脈 リンパ管の構造と機能	
16	呼吸について		外呼吸と内呼吸	
17	呼吸器系の解剖		上気道と下気道 肺葉 肺区域 肺胞	
18	呼吸運動		吸息と呼息 呼吸調節	
19	スパイログラム 肺活量		スパイロメーター測定	
20	ガス交換とガスの運搬		肺におけるガス交換と血液によるガス交換	

回	テ ー マ	内 容		
21	呼吸器と循環	新肺機能とは		
22	消化器系の解剖	口腔から肛門まで		
23	嚥下機能と発声①	咀嚼と嚥下機能 発声		
24	嚥下機能と発声②	咀嚼と嚥下機能 食道の役割		
25	胃の役割と消化	食物貯蔵と輸送 胃液と消化		
26	小腸（十二指腸）	小腸（十二指腸）		
27	小腸と大腸の役割と解剖	小腸の栄養吸収 リンパ管		
28	大腸と排便	直腸と排便反射		
29	肝臓の役割と機能	肝臓の役割と胆汁産生		
30	胆のうの役割と機能	胆のうの役割と胆汁分解		
31	栄養の合成①	消化吸収と栄養の合成		
32	栄養の合成②	消化吸収と栄養の合成		
33	体温の調節①	体熱の産生と放熱		
34	体温の調節②	体温の調節と異常		
35	振り返り	呼吸器 消化器系 体温調整について		
36	泌尿器系の解剖と機能	腎臓と泌尿器の構造と機能		
37	尿の生成と排泄	畜尿と排尿反射		
38	血圧調整	排尿と血圧の関係		
39	酸塩基平衡について	肺と腎臓の関係 酸塩基平衡について		
40	内分泌系①	ホルモンの役割 外分泌と内分泌		
41	内分泌系②	ホルモンの種類		
42	内分泌系③	ホルモンの作用		
43	生殖器系①	男性と女性の生殖器		
44	生殖器系②	発生		
45	振り返り	泌尿器系 生殖器系 内分泌系の役割		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院） ・ リハビリテーションテキスト 生理学 （メディカルビュー社		期末試験 確認テスト	40% 60%	能動的な姿勢で臨 む事

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖学実習		理学療法学科／1年	2024／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	村上 匡司・田中 裕介
授 業 の 概 要				
人体を構成する器官は、立体的に体格を構築すると共に、体腔内に立体的に納まっている。立体的な認識を得るためには、丁寧な予習に裏付けられた知識と実習室における系統的な観察が重要であり、構造と機能の相関理解に努めることで目的は達成できる。同時に篤志献体された方々のご厚意に触れ、医療人としてあるべき姿を心に刻む。				
授業終了時の到達目標				
・人体の基本構造を学習し、筋骨格系、末梢神経系、脈管系、内臓系の構造と機能を理解する。人体の立体的構造を立体視できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	村上 匡司、田中 裕介：理学療法士として5年以上の実務経験 問題解決のための自己学習プロセスを教示する。			
時間外に必要な学修				
教科書を授業前に確認しておくこと。				
回	テ ー マ		内 容	
1	グループ成果発表 1		オリエンテーション・上肢帯の調べ学習	
2	グループ成果発表 2		上肢帯の調べ学習	
3	グループ成果発表 3		発表（上肢帯）	
4	グループ成果発表 4		下肢帯の調べ学習	
5	グループ成果発表 5		下肢帯の調べ学習	
6	グループ成果発表 6		発表（下肢帯）	
7	グループ成果発表 7		中枢神経系の調べ学習	
8	グループ成果発表 8		中枢神経系の調べ学習	
9	グループ成果発表 9		中枢神経系の調べ学習	
10	グループ成果発表 1 0		発表（中枢神経系）	
11	グループ成果発表 1 1		内臓器の調べ学習	
12	グループ成果発表 1 2		内臓器の調べ学習	
13	グループ成果発表 1 3		発表（内臓器）	
14	グループ成果発表 1 4		確認試験	
15	解剖実習見学		筋骨格系の形と走行、神経血管系との位置関係を観察	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院） ・プロメテウス解剖学コアアトラス（医学書院）		習熟度試験（1回） グループ成果発表	30% 70%	TBL形式で行う

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
人間発達学		理学療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	宮内 貴志子
授 業 の 概 要				
胎児期から新生児期、乳児期、学童期から青年期、老年期に至るまでの、身体的な成長・発達および精神的な発達を学び、それぞれの時期の発達の特徴を理解する。また、成長・発達に関係する因子と発達理論および発達評価法の概略を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ 発達的一般原則、発達理論の概略を理解する。 ・ 発育・発達関係する因子を説明でき、発育・発達に与える影響と理論を理解する。 ・ 新生児期に必要な原始反射と立ち直り反応・平衡反応が説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の経験 胎児期からの発達をイメージしやすいように展開する。		
時間外に必要な学修				
生涯発達に興味を持ちテキストを読み返してください。				
回	テ ー マ		内 容	
1	人間発達学総論		人間発達とは 発達にみられる諸原則	
2	胎児期について		発達段階と課題について（総論） 胎児期の子宮環境について	
3	出産と新生児期について		出生に伴う呼吸や心臓機能の変化 胎児循環と肺呼吸	
4	乳児期の発達（0から3か月頃）		哺乳と原始反射 姿勢の変化と身体機能	
5	乳児期の発達（3から6か月頃）		乳児期の姿勢と定頸・寝返りの獲得 姿勢変化と立ち直り反応の出現	
6	乳児期の発達（7から9か月頃）		座位保持・四つ這い・腹ばいの獲得	
7	乳児期の発達（10から12か月頃）		歩行の獲得 平衡反応の充実	
8	原始反射と姿勢反射・平衡反応総論		脳の発達と原始反射・立ち直り反応・平衡反応の出現	
9	幼児期前半の発達課題		幼児期の遊びと学習 家庭内での学習	
10	幼児期の発達評価		幼児期の発達スクリーニング評価	
11	幼児期後半の発達		目と手の協調性 食事と嚥下機能（哺乳から自己摂食）	
12	学童期の発達		集団での学習と発達	
13	青年期の発達		自己同一性の獲得	
14	成人期の発達		親世代の発達と役割について	
15	老年期の発達 まとめ		総括と重要ポイント復習	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストでわかる人間発達（医歯薬出版）		期末試験 確認テスト	90% 10%	能動的な姿勢で臨む事

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
体表面解剖学Ⅰ		理学療法学科／1年	2025／前期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	永田 泰仁
授 業 の 概 要				
体表面に骨や筋の位置や走行を投影し、触察できるようになる。				
授業終了時の到達目標				
上肢の骨と関節を触察できる。 上肢の筋を触察できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験 治療で活用してきた触診技術を学生がイメージしやすく授業を展開する。			
時間外に必要な学修				
筋を触察する上で、起始・停止・走行・作用を頭に入れて置くことが重要である。				
回	テ ー マ	内 容		
1	・ 触察のための基本技術と注意事項 ・ 肩甲骨（後面）の触察	・ 触診の基礎と技術・肩甲骨（後面）のランドマークの名称 ・ 肩甲骨（後面）の各ランドマークの触察実習		
2	・ 鎖骨の触察 ・ 上腕骨の触察	・ 鎖骨、上腕骨のランドマークの名称 ・ 鎖骨、上腕骨の各ランドマークの触察実習		
3	・ 烏口突起、上腕骨近位部の骨指標の触察	・ 烏口突起、三角筋粗面、大結節、小結節、結節間溝の触察		
4	・ 肩関節周囲筋の触察	・ 三角筋、僧帽筋（上部、中部、下部）、広背筋、大円筋の触察		
5	・ 肩回旋筋群の触察	・ 棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋の触察		
6	・ 肩甲骨の挙上・上方・下方回旋筋の触察	・ 大菱形筋、小菱形筋、肩甲挙筋、前鋸筋の触察		
7	・ 上腕骨及び肩甲骨から体幹に付着する筋の触察	・ 大胸筋（鎖骨部、胸骨部、腹部線維）、小胸筋、鎖骨下筋の触察		
8	・ 上腕部の筋群の触察	・ 上腕二頭筋（長頭・短頭）、上腕筋、烏口腕筋、上腕三頭筋の触察		
9	・ 前腕の骨指標の触察	・ 上腕骨上顆、上顆稜・尺骨の触察・橈骨の触察		
10	・ 手根骨と中手骨の触察	・ 豆状骨、三角骨、有鉤骨、舟状骨、大菱形骨、小菱形骨、有頭骨、月状骨の触察・中手骨の触察		
11	・ 前腕伸筋群の触察	・ 肘筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋、総指伸筋、尺側手根伸筋、小指伸筋、示指伸筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋の触察		
12	・ 前腕屈筋群の触察	・ 腕橈骨筋、円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、浅指屈筋、深指屈筋の触察		
13	・ 母指球筋の触察 ・ 小指球筋の触察	・ 母指対立筋、短母指外転筋、短母指屈筋、母指内転筋、小指外転筋、小指屈筋、小指対立筋虫様筋、掌側・背側骨間筋の作用の理解		
14	まとめ	上肢の復習		
15	まとめ	上肢の復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院） ・ プロメテウス解剖学コアアトラス（医学書院）		期末試験	100%	定期的に確認テストを実施し習熟度を確認する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
体表面解剖学Ⅱ		理学療法学科／1年	2025／後期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	中嶋 志保
授 業 の 概 要				
体表面に骨や筋の位置や走行を投影し、触察できるようになる。				
授業終了時の到達目標				
下肢・体幹の骨と関節を触察できる。 下肢・体幹の筋を触察できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験 治療で活用してきた触診技術を学生がイメージしやすく授業を展開する。			
時間外に必要な学修				
筋を触察する上で、起始・停止・走行・作用を頭に入れて置くことが重要である。				
回	テ ー マ		内 容	
1	・ 胸骨、肋骨の触察		・ 胸骨（胸骨柄、胸骨体、剣状突起）肋軟骨、肋骨の触察	
2	・ 脊柱起立筋群の触察		・ 棘筋、最長筋、腸肋筋、多裂筋の触察	
3	・ 頸部、後頭部の筋群の触察 ・ 腰部、腹部の筋群の触察		・ 頭板状筋、後頭筋群の触察・腰方形筋、腹直筋、内・外腹斜筋、横隔膜、肋間筋の触察	
4	・ 頭部の骨指標の触察 ・ 気管、甲状軟骨、舌骨の触察		・ 外後頭隆起、上項線、乳様突起、頬骨弓、茎状突起、下顎角、下顎枝、下顎頭、筋突起の触察・輪状軟骨、甲状軟骨、舌骨の触察	
5	・ 頭部、頸部筋群の触察 ・ 頸部の動脈と分泌腺の触察		・ 胸鎖乳突筋、斜角筋、咬筋、側頭筋、舌骨上・舌骨下筋群総頸動脈、側頭動脈、顔面動脈、耳下腺、顎下腺の触察	
6	・ 骨盤・下肢の骨指標の触察		・ 骨盤、大腿骨、下腿骨の骨指標の確認と説明	
7	・ 骨盤の骨指標の触察 ・ 大転子の触察 ・ 骨盤の靱帯の触察		・ 上前腸骨棘、下前腸骨棘、腸骨稜、腸骨窩、上後腸骨棘、坐骨結節、仙骨、尾骨、恥骨、仙腸関節の触察 ・ 大転子の触察	
8	・ 大腿前面の筋群の触察		・ 内転筋群（恥骨筋、長内転筋、大内転筋、薄筋）の触察 ・ 縫工筋、大腿筋膜張筋、腸脛靱帯、大腿四頭筋の触察	
9	・ 腸骨筋、大腰筋の触察		・ 腸骨筋、大腰筋の触察	
10	・ 大腿後面の筋群の触察・後膝窩部の触察・鵞足を構成する筋群の触察		・ 大腿二頭筋、半腱・半膜様筋、膝窩筋の触察 ・ 後膝窩部の筋群の位置関係の確認・鵞足の触察	
11	・ 膝関節の骨指標と靱帯の触察 ・ 足関節と足部の骨指標と靱帯の触察		・ 膝蓋骨、脛骨体、脛骨粗面、脛骨高原、関節裂隙、腓骨頭、大内転筋結節の触察、足根骨と中足骨の触察	
12	・ 下腿後面の筋群の触察		・ 腓腹筋、足底筋、ヒラメ筋、後脛骨筋、長母趾屈筋、長趾屈筋の触察	
13	・ 足底部の筋群の触察		・ 母趾外転筋、小趾外転筋、短趾屈筋	
14	まとめ		下肢の復習	
15	まとめ		下肢の復習	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院） ・ プロメテウス解剖学コアアトラス（医学書院）		期末試験	100%	定期的に確認テストを実施し習熟度を確認する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖生理学Ⅲ		理学療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	宮内 貴志子
授 業 の 概 要				
内部障害に対し理学療法を行うための基礎知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
恒常性を保つための、各臓器の役割を説明することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 理学療法との接点を交えながら授業を展開する。			
時間外に必要な学習				
その日のうちに授業資料と教科書を見直す。資料をファイリングする。				
回	テ ー マ		内 容	
1	内臓器の位置と役割		各臓器の位置関係と機能を	
2	血液と体液		血液の成分と赤血球の働き 体液とは	
3	血液の機能		白血球と血小板の働き	
4	細胞と血液・体液		血漿の機能 細胞	
5	循環器系の構造と機能		心臓と血管の構造 心臓の機能	
6	循環器系の構造と機能		刺激伝導系と心筋④動き	
7	循環器系の構造と機能		血圧調節について	
8	循環器系の構造と機能		全身をめぐる動脈と静脈① 大循環と小循環	
9	循環器系の構造と機能		全身をめぐる動脈と静脈② 腹部と脳 臓器循環	
10	循環器系の構造と機能		静脈還流量の調節 リンパ管の構造と役割	
11	呼吸器系の構造と機能		上気道と下気道 肺葉 肺区域 肺胞	
12	呼吸器系の構造と機能		吸息と呼息運動 呼吸筋について 呼吸調節中枢	
13	呼吸器系の構造と機能		肺に出入りする換気量について	
14	呼吸器系の構造と機能		肺におけるガス交換と血液によるガス交換の仕組み 外呼吸と内呼吸	
15	呼吸と循環のまとめ		振り返り	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院）／リハビリテーションテキスト 生理学（メディカルビュー社		期末試験	100%	欠席しないように 気を付ける 積み残しのないよ うに復習すること

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖生理学Ⅳ		理学療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	宮内 貴志子
授 業 の 概 要				
内部障害に対し理学療法を行うための基礎知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
恒常性を保つための、各臓器の役割を説明することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 理学療法との接点を交えながら授業を展開する。			
時間外に必要な学習				
その日のうちに授業資料と教科書を見直す。資料をファイリングする。				
回	テ ー マ		内 容	
1	消化器系の構造と機能		口腔から肛門までの構造	
2	消化器系の構造と機能		咀嚼と嚥下機能 発声	
3	消化器系の構造と機能		消化と吸収 胃における食物貯蔵と輸送	
4	消化器系の構造と機能		消化と吸収 小腸・大腸の機能	
5	消化器系の構造と機能		消化と吸収 肝臓・胆のう。膵臓の機能	
6	消化器系の構造と機能		大腸と肛門の構造 排便反射について	
7	消化器系の構造と機能		消化吸収と栄養の合成	
8	泌尿器系の解剖と機能		腎臓と尿管・膀胱の構造と機能	
9	泌尿器系の解剖と機能		尿の生成と排泄 蓄尿と排尿反射	
10	酸塩基平衡について		肺と腎臓の関係 酸塩基平衡について	
11	生殖器系の構造と機能		男性と女性の生殖器系の構造と機能	
12	発生 胎児の成長		発生 受精から出産まで 胎児の成長と胎児循環	
13	内分泌系の構造と機能		ホルモンの役割 外分泌と内分泌	
14	内分泌系の構造と機能		ホルモンの種類と働き	
15	体温と代謝		体温調節、熱の産生と放散 エネルギー代謝と物質代謝	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院） リハビリテーションテキスト 生理学 （メディカルビュー社		期末試験	100%	欠席しないように 気を付ける 積み残しのないよ うに復習する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生理学演習		理学療法学科／1年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	村上 匡司
授 業 の 概 要				
理学療法の基礎となる生理学的知識を、理論から実際の生体反応へ結びつける。演習を通じて、各種測定技術を習得し、臨床現場で即応できるスキルを身につける。				
授業終了時の到達目標				
・生理学的知識をもとに、理論と実際の生体反応とを関連付けて理解できる。 ・臨床現場で活用できる生理学的検査測定 of 技術を習得することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。			
時間外に必要な学修				
生理学の復習。				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション		ガイダンス	
2	演習計画作成①		第5回～8回までの内容について、解剖生理学的知識の復習、計測方法の具体化（4グループ）	
3	演習計画作成②		第5回～8回までの内容について、解剖生理学的知識の復習、計測方法の具体化（4グループ）	
4	演習計画作成③		演習計画書作成	
5	血圧と心拍数の測定		触診法から聴診法へ、心拍数は体表での触知と聴診器を用いた計測、心尖拍動まで	
6	心電図の計測		心臓の電気活動を心電図を通して理解する	
7	呼吸数の測定と酸素飽和度		触診による計測から聴診器を用いた呼吸数の測定、パルスオキシメーターによる酸素飽和度の測定	
8	スパイロメトリー		努力性肺活量、1秒率などを計測	
9	演習計画作成①		第12回～15回までの内容について、解剖生理学的知識の復習、計測方法の具体化（4グループ）	
10	演習計画作成②		第12回～15回までの内容について、解剖生理学的知識の復習、計測方法の具体化（4グループ）	
11	演習計画作成③		演習計画書作成	
12	深部腱反射、病的反射		各反射検査と、それからわかる所見について	
13	神経伝導検査		機器を用いた神経伝導速度の測定	
14	表面筋電図		筋肉の電気活動を測定、運動や姿勢との同期を考察する	
15	ハンドヘルドダイナモメーター		徒手筋力測定器を用いて筋力の数値化や疲労度を評価する	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験 レポート	50% 50%	機器の操作方法については事前に予習をしておくこと

疾病と障害の成り立ち及び 回復過程の促進

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床心理学		理学療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	福田 琴
授業の概要				
- 臨床心理分野の疾患の理解。 - 各疾患の治療法を学ぶ。 - 自分たちの職種が出来る範囲のことを知る。				
授業終了時の到達目標				
- 臨床心理分野の疾患を理解する。 - 各疾患の治療法を理解する。 - 自分たちの職種で出来る各疾患の治療を学ぶと共に、自分で考える。				
時間外に必要な学修				
授業前に教科書、配布資料を確認しておくこと。				
回	テーマ	内 容		
1	臨床心理学概論	臨床心理学の歴史 各種心理テストの概略 など		
2	神経症 1（不安障害）	不安障害の種類 強迫性障害とパニック障害に対する暴露療法 など		
3	神経症 2（身体表現性障害）	転換性障害のメカニズム 心気症と心身症の違い など		
4	神経症 3（解離性障害） 適応障害	解離性障害の防衛メカニズム 離人症性障害の症状 など		
5	人格障害 1	各クラスターに属するパーソナリティ障害 など		
6	人格障害 2	パーソナリティ障害の合併 クラスターC（回避性パーソナリティ障害など）		
7	摂食障害 統合失調症について	神経性無食欲症、過食発作 統合失調症の概念、歴史、下位分類		
8	依存症 気分障害について	依存症の種類、依存と乱用の違い 双極性障害と大うつ病の違い、認知行動療法		
9	てんかん 睡眠障害 性障害について	てんかんの原因、発作の種類、脳波の特徴 睡眠・覚醒リズム障害の概要、性障害の分類		
10	子供の精神障害とその周辺について 1	精神遅滞と知能指数の関係、学習障害の種類 注意欠陥・多動性障害の原因と症状		
11	子供の精神障害とその周辺について 2	社会問題となった子供の異常の数々を知る。 児童虐待について		
12	老化とその障害 リラクゼーションについて	アルツハイマー型認知症と血管性認知症の違い 各種リラクゼーション法の概要		
13	精神療法 力動精神療法	フロイト精神分析、家族療法、集団療法 力動精神療法の流れ、自我心理学の概要		
14	認知行動療法 支持療法	認知行動療法の概要、ベックの方法論 支持療法の歴史、心理療法的アプローチ		
15	薬物療法 セルフアセスメント	薬物の種類と副作用、脳内ホルモンの働き 臨床心理学全体の総括		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理学（医学書院）		期末試験	100%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
一般臨床医学		理学療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	宮内 貴志子・坂口 千恵美
授 業 の 概 要				
医学一般について幅広く知識を深めていく学問であり、代表的な疾患の概要や症状、治療などについて習得する。				
授業終了時の到達目標				
代表的な疾患について理解を深めるとともに、基礎医学との関連性を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	坂口千恵美・宮内貴志子：理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。			
時間外に必要な学修				
各疾患の病態について復習をしておく。				
回	テ ー マ		内 容	
1	バイタルサインについて（1）		アンダーソンの基準 リハビリテーション中止基準とは	
2	バイタルサインについて（2）		正常値と運動療法中止の違い	
3	バイタルサインについて（3）		血圧と脈拍の異常	
4	バイタルサインについて（4）		呼吸数と酸素飽和度の異常	
5	バイタルサインについて（5）		体温調節、発熱、意識の異常	
6	栄養とリハビリテーション①		栄養障害と食事管理	
7	栄養とリハビリテーション②		必要な栄養素と疾患	
8	栄養とリハビリテーション③		栄養と血液	
9	薬物とリハビリテーション①		薬物と薬物動態	
10	薬物とリハビリテーション②		疾患と治療 副作用	
11	がん患者のリハビリテーションについて①		がんとは	
12	がん患者のリハビリテーションについて②		診断と治療	
13	がん患者のリハビリテーションについて③		治療の効果と副作用	
14	がん患者のリハビリテーションについて④		手術療法とリンパ浮腫	
15	救急法の基礎講習（1）		心肺停止とは 発見した時の対応	
16	救急法の基礎講習（2）		胸骨圧迫と人工呼吸 除細動器	

回	テ　　マ	内　　　　　容		
17	病因論1	外因 ・物理的要因　・科学的要因　・栄養障害　・生物学的要因		
18	退行性病変・進行性病変1	退行性病変 ・変性　　・萎縮　　・細胞死		
19	退行性病変・進行性病変2	進行性病変 ・肥大と過形成　・化生　　・異形成　　・再生と創傷治癒		
20	循環障害1	・体液循環の機構		
21	循環障害2	・局所の循環障害(充血とうっ血、浮腫、出血、血栓症、塞栓症、 虚血と梗塞)		
22	免疫1	免疫の概念 免疫の成立		
23	免疫2	免疫反応がもたらす障害・疾患 移植		
24	炎症・感染症1	・炎症とは　・炎症の原因　・体液性因子　・炎症の経時的変化 ・炎症の種類　・炎症の全身への影響　・炎症の転帰		
25	炎症・感染症2	・感染症とは　・感染症の成立　・微生物の感染経路・様式 ・生体の感染防止機構　・病原微生物の種類と疾患		
26	代謝異常1	・糖質代謝異常 ・蛋白質代謝異常		
27	代謝異常2	・脂質代謝異常 ・その他の代謝異常		
28	先天性異常・奇形	先天異常・奇形とは 遺伝性疾患,染色体異常		
29	薬理学の基本	薬理学の基本 炎症の薬、パーキンソンの薬、糖尿病の薬、循環器など		
30	まとめ1	国試の過去問を実施することで、知識の定着の確認と期末試験 対策を実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
PT・OT・STのための一般臨床医学 (医歯薬出版)		期末試験 実技（救急法基礎講習）	90% 10%	能動的な姿勢で臨 む事

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
リハビリテーション整形外科学		理学療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	横川 光代
授 業 の 概 要				
整形外科の一般的疾患について病態と治療について必要な知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
・ 整形外科の一般的疾患に対する病態を理解する。 ・ 診断方法、治療方法（手術・保存）を理解し、リハビリテーションの実施に役立てる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 手術後療法、保存療法の経験談を交えながら授業を進める。			
時間外に必要な学修				
前回の資料を確認して復習、テキストを用いて次回の予習をする。				
回	テ ー マ		内 容	
1	運動器の生理①（骨・関節）		・ 骨の構造・分類、骨の成長と骨代謝 ・ 関節の構造、関節軟骨の機能	
2	運動器の生理②（神経）		・ 神経の種類、シナプス伝達 ・ 各伝導路の復習	
3	運動器の生理③（筋）		・ 骨格筋の分類 ・ 骨格筋の収縮、収縮の種類	
4	運動器の整形外科、診療の流れ		・ 保存療法、手術療法 ・ 各治療法の合併症	
5	運動器の整形外科、治療		・ 診察、症候、診断に利用される各種検査	
6	骨折・脱臼①		・ 骨折・脱臼総論 ・ 上肢の骨折・脱臼	
7	骨折・脱臼②		・ 上肢の骨折・脱臼	
8	骨折・脱臼③		・ 下肢の骨折・脱臼	
9	骨折・脱臼④		・ 下肢の骨折・脱臼 ・ 脊椎・骨盤の骨折	
10	変形性関節症①		・ 病態、疫学	
11	変形性関節症②		・ 変形性膝関節症、保存、手術療法	
12	変形性関節症③		・ 変形性股関節症、保存、手術療法	
13	関節リウマチ①		・ 概念・疫学・病態	
14	関節リウマチ②		・ 関節症状、関節外症状、検査、診断	
15	関節リウマチ③		・ 治療、薬物療法	

回	テ　　マ	内　　　容		
16	上肢の疾患	・ 肩関節周囲炎、腱板断裂、腱鞘炎		
17	下肢の疾患	・ 大腿骨頭壊死、大腿骨頭すべり症、足部変形		
18	スポーツ外傷・障害①	・ ACL損傷、PCL損傷、足関節靱帯損傷、アキレス腱断裂		
19	スポーツ外傷・障害②	・ 野球肘、テニス肘、離断性骨軟骨炎、肩峰下インピンジメント症候群		
20	骨端症	・ Perthes病、Osgood-Schlatter病、Kohler病等		
21	骨腫瘍	・ 骨腫瘍の特徴、臨床像、画像診断、合併症		
22	先天性異常症候群	・ 先天性疾患の病態、合併症、診断、治療		
23	熱傷	・ 熱傷深度、関節拘縮の治療		
24	末梢神経損傷①	・ 末梢神経損傷の分類、病態、症状 ・ 下肢の末梢神経損傷		
25	末梢神経損傷②	・ 腕神経叢損傷、胸郭出口症候群の症状、診断、治療		
26	末梢神経損傷③	・ 正中神経、橈骨神経、尺骨神経の症状、診断、治療		
27	脊椎・脊髄疾患①	・ 脊椎、脊髄の解剖（復習） ・ 各伝導路（復習）		
28	脊椎・脊髄疾患②	・ myelopathyとradiculopathyの症状の違い ・ 脊椎・脊髄疾患の種類		
29	脊髄損傷①	・ 発生要因、病態、症状、高位診断		
30	脊髄損傷②	・ 脊髄損傷と機能的予後、リハビリテーション		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
病気がみえるvol.11 運動器・整形外科 （メディックメディア）		小テスト 期末試験	50% 50%	小テストは講義が5 回終了する毎に実施

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
リハビリテーション神経学		理学療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	菅原 健太郎
授 業 の 概 要				
リハビリテーションの対象となる脳血管障害、神経筋難病、末梢神経障害等の発症機序や治療法および理学療法プログラムを教授する。				
授業終了時の到達目標				
各疾患の発症機序、疫学、診断法と治療法を理解する。 病態に応じた適切な理学療法プログラムを立案するための基礎となる知識を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 病院勤務経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。			
時間外に必要な学修				
症状発現のメカニズムを理解するため、解剖生理学Ⅰの知識を復習すること。				
回	テ ー マ		内 容	
1	脳血管障害総論（１）		神経系の全体像と大脳の構造	
2	脳血管障害総論（２）		大脳皮質	
3	脳血管障害総論（３）		大脳辺縁系・大脳基底核	
4	脳動脈		内頸・椎骨動脈	
5	脳梗塞（１）		アテローム血栓性脳梗塞・心原性脳塞栓症	
6	脳梗塞（２）		ラクナ梗塞、一過性脳虚血発作	
7	脳出血（１）		被殻出血、視床出血	
8	脳出血（２）		くも膜下出血	
9	脳血管障害のリハビリ（１）		高次脳機能障害（失行・失認）	
10	脳血管障害のリハビリ（２）		高次脳機能障害（失語）	
11	脳静脈		脳脊髄液・正常圧水頭症	
12	運動・感覚・自律神経（１）		構造と機能（１）	
13	運動・感覚・自律神経（２）		構造と機能（２）	
14	脳神経（１）		構造と機能（１）	
15	脳神経（２）		構造と機能（２）	

回	テ ー マ	内 容		
16	脊髄疾患	脊髄梗塞・脊髄空洞症		
17	末梢神経障害（１）	GBS、CIDP、Charcot-Marie-Tooth病		
18	末梢神経障害（２）	糖尿病性ニューロパチー、絞扼性ニューロパチー		
19	脱髄性疾患	多発性硬化症		
20	神経変性疾患（１）	筋萎縮性側索硬化症・パーキンソン病		
21	神経変性疾患（２）	パーキンソン病		
22	筋疾患（１）	筋ジストロフィー		
23	筋疾患（２）	重症筋無力症		
24	代謝性疾患・感染性疾患	Wernicke脳症・プリオン病		
25	認知症	アルツハイマー型認知症		
26	腫瘍	脳腫瘍		
27	外傷	頭蓋骨骨折		
28	まとめ（１）	復習（１）		
29	まとめ（２）	復習（２）		
30	まとめ（３）	復習（３）		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
病気が見える Vol.7 脳・神経 （メディックメディア）		期末試験	100%	解剖生理学Ⅰの知識を応用する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
リハビリテーション内科学		理学療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	中嶋 志保
授 業 の 概 要				
リハビリテーションに関わりの深い内科系疾患について、疾患概念や病態を中心に基本的な知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
各臓器や器官の構造・機能と疾患の病態や症状との関連を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 臨床経験をいかして理学療法との接点を交えながら授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
各臓器の機能について解剖生理学の該当範囲と照らし合わせながら復習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	理学療法士と内科疾患		理学療法士が内科学を学ぶ意義	
2	呼吸器疾患①		閉塞性肺疾患の概要 症状と身体所見、主な検査、治療	
3	呼吸器疾患②		調べ学習とグループ内レクチャー	
4	呼吸器疾患③		間質性肺疾患の概要 症状と身体所見、主な検査、治療	
5	呼吸器疾患④		調べ学習とグループ内レクチャー	
6	呼吸器疾患⑤		その他の呼吸器疾患について 肺水腫、急性呼吸窮迫症候群、肺血栓塞栓症	
7	循環器疾患①		虚血性心疾患総論 疾患の概要、分類	
8	循環器疾患②		狭心症、心筋梗塞 症状と身体所見、主な検査、治療	
9	循環器疾患③		調べ学習とグループ内レクチャー	
10	循環器疾患④		心不全の概要 症状と身体所見、主な検査、治療	
11	循環器疾患⑤		調べ学習とグループ内レクチャー	
12	循環器疾患⑥		心臓弁膜症の概要 症状と身体所見、主な検査、治療	
13	循環器疾患⑦		動脈疾患の概要 症状と身体所見、主な検査、治療	
14	循環器疾患⑧		静脈疾患の概要 症状と身体所見、主な検査、治療	
15	前半の復習		中間試験	

回	テ ー マ	内 容		
16	腎臓・泌尿器疾患①	急性腎不全、慢性腎臓病の概要 症状と身体所見、主な検査、治療		
17	腎臓・泌尿器疾患②	調べ学習とグループ内レクチャー		
18	肝疾患①	肝炎総論 ウイルス性肝炎		
19	肝疾患②	急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変の概要 症状と身体所見、主な検査、治療		
20	肝疾患③	調べ学習とグループ内レクチャー		
21	胆・膵疾患①	膵炎の概要 症状と身体所見、主な検査、治療		
22	胆・膵疾患②	調べ学習とグループ内レクチャー		
23	小腸・大腸疾患	小腸・大腸疾患の概要 腸閉塞、イレウスの症状と身体所見、主な検査、治療		
24	代謝性疾患①	糖尿病の概要 症状と身体所見、主な検査、治療		
25	代謝性疾患②	調べ学習とグループ内レクチャー		
26	内分泌疾患①	内分泌系の仕組み 作用機序		
27	内分泌疾患②	視床下部一下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎機能の異常 症状と身体所見、主な検査、治療		
28	内分泌疾患③	調べ学習とグループ内レクチャー		
29	免疫・膠原病①	膠原病の概要 自己免疫疾患と自己抗体		
30	免疫・膠原病②	主な膠原病の症状と身体所見		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・病気がみえる Vol.1 消化器 ・病気がみえる Vol.2 循環器 ・病気がみえる Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 ・病気がみえる Vol.4 呼吸器 ・病気がみえる Vol.6 免疫・膠原病・感染症 ・病気がみえる Vol.8 腎・泌尿器 (メディックメディア)		中間試験 期末試験	50% 50%	個々の臓器ではなく、一連の流れでイメージを持ちましょう

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
精神医学		理学療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	植野 英一
授 業 の 概 要				
精神医学の基礎について学び、国家試験に準拠した内容を十分に理解し、理学療法業務に活かす。				
授業終了時の到達目標				
精神医学の基礎について、他者に説明できる。 期末試験で6割以上正答できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の臨床経験 作業療法士としての経験を生かして学生に分かりやすく伝える。			
時間外に必要な学修				
指定テキストを使用し、予習復習に努める。				
回	テ ー マ		内 容	
1	授業概要の説明 精神医学とは		授業概要の説明、精神医学とは、精神障害にかかわる概念、精神障害の分類、理学療法との関連事項	
2	認知症 1		アルツハイマー病の病態、診断、治療 レビー小体型認知症の病態、診断、治療	
3	認知症 2		前頭側頭型認知症（ピック病）の病態、診断、治療 認知症の国家試験過去問題を解く	
4	アルコール依存症		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
5	統合失調症およびその関連障害		統合失調症とは、疫学、精神症状の特徴、病型、成因 ないし病態、治療、自己臭恐怖の病態	
6	うつ病		うつ病の病態、診断、治療	
7	双極性障害		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
8	パニック症		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
9	適応障害		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
10	摂食障害		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
11	睡眠障害		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
12	境界性パーソナリティ障害		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
13	自閉症		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
14	てんかん		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
15	総まとめ		総まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
臨床につながる精神医学（医歯薬出版）		期末試験	100%	毎回、授業の終わりに質問時間を設ける

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
小児科学		理学療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	宮内 貴志子
授 業 の 概 要				
・ 子供と大人の違い、小児疾患について理解を深める。 ・ 疾患を持った子供の成長に必要なこと。				
授業終了時の到達目標				
・ 小児科についての理解を深めることができる。 ・ 小児科について興味が持てる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の経験 疾患を持った児や家族とのかかわりをイメージできるように展開する。			
時間外に必要な学修				
教科書以外のニュースなどへも関心を持ち情報収集を心掛けてください。				
回	テ ー マ		内 容	
1	小児科学概論		小児の成長と発達	
2	小児科学概論		小児の栄養、保健、新生児スクリーニング	
3	小児疾患の治療		小児の検査、治療、薬物療法、水分補給、救急医療	
4	新生児、早期産児の病態		周産期の用語、出生時の評価、新生児仮死、アプガースコア、新生児黄疸、核黄疸	
5	新生児、早期産児の病態		低出生体重児、脳室周囲軟化症、頭蓋内出血	
6	先天異常と遺伝病		染色体（常染色体優性遺伝、常染色体劣性遺伝）	
7	先天異常と遺伝病		21トリソミー、18トリソミー ターナー症候群、心奇形、先天性代謝異常、フェニルケトン尿症	
8	神経・筋・骨疾患		脳の先天性奇形、脳性麻痺、てんかん、精神遅滞	
9	神経・筋・骨疾患		進行性筋ジストロフィー、重症筋無力症、発育性股関節脱臼、骨形成不全症	
10	循環器疾患		先天性心疾患、心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、チアノーゼ、ファローの四徴候	
11	呼吸器疾患		上気道炎、気管支炎、肺炎、酸素療法、人工換気療法	
12	感染症		麻疹、風疹、溶連菌感染症、百日咳、結核、無菌性髄膜炎、細菌性髄膜炎、インフルエンザ脳症	
13	消化器、内分泌疾患		腸重積、ロタウイルス感染症、ノロウイルス感染症、0-157感染症、肝炎、クレチン症、Ⅰ型糖尿病	
14	その他の疾患		小児がん、白血病、アレルギー。川崎病	
15	その他の疾患		心身症、重症心身障害児	
教科書・教材			評価基準	評価率
標準理学療法学・作業療法学 小児科学（医学書院）			確認テスト 課題・レポート	40% 60%
				課題は丁寧に取り組んでください。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
リハビリテーション診断学		理学療法学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	村上 匡司
授 業 の 概 要				
・ 画像の種類や特徴などについて学び、得られる情報に気付くトレーニングを行う。 ・ 得られた情報から考えられる病態を模索する。				
授業終了時の到達目標				
・ 異常所見、画像所見を述べるができる。 ・ 画像所見から予測できる臨床症状、それに関連する評価項目を述べるができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。			
時間外に必要な学修				
解剖学の復習。				
回	テ ー マ		内 容	
1	画像の基本と検査法について（1）		骨折のX線診断の基本、撮影方向について、X線、CT、MRI、DSA、CAG、SPECTとPET、ECGなど	
2	画像の基本と検査法について（2）		骨折のX線診断の基本、撮影方向について、X線、CT、MRI、DSA、CAG、SPECTとPET、ECGなど	
3	四肢、関節の画像（1）		骨盤、股関節、大腿骨、脛骨、腓骨、膝蓋骨の画像解剖について	
4	四肢、関節の画像（2）		骨折のX線診断ポイント、外傷におけるX線撮影判断の適応例、開放骨折と皮下骨折、骨折の分類、合併症など	
5	四肢、関節の画像（3）		大腿骨頭壊死、疲労骨折、Kellgren- Lawrence分類、上腕骨近位端骨折、肩関節脱臼、その他の骨折など	
6	四肢、関節画像のまとめ 確認テスト		まとめと確認テスト	
7	四肢、関節の画像（症例問題）		症例問題	
8	脊椎、脊髄の画像（1）		椎体と椎弓、線維輪と髄核、上下の椎骨を結ぶ靱帯、全椎骨を通じて結ぶ靱帯、頸椎の画像解剖について	
9	脊椎、脊髄の画像（2）		胸椎の画像解剖、腰椎の画像解剖と斜位像での映り方、頸椎MRIと腰椎MRI、異常所見について	
10	脊椎、脊髄の画像（3）		椎間板ヘルニア、OPLL、黄色靱帯骨化症、腰部脊柱管狭窄症、脊髄損傷、強直性脊椎炎、化膿性脊椎炎など	
11	脊椎、脊髄の画像（4） 脊椎、脊髄の画像（症例問題）		症例問題	
12	脊椎、脊髄画像のまとめ 確認テスト		まとめと確認テスト	
13	頭部の画像（1）		脳脊髄液と脳室、側脳室の外景、頭部CTの画像解剖について	
14	頭部の画像（2）		頭部MRIの画像解剖、脳血管の灌流領域、脳血管の立体構造、脳血管のMRA、Papez回路について	
15	頭部の画像（3）		異常所見について、T2＊強調画像、FLAIR像、拡散強調像について	
16	頭部の画像（4）		脳血管障害のCT、MRIの特徴、出血の分類、虚血再灌流障害とその画像、動脈瘤の好発部位、頭部外傷など	
17	頭部の画像（症例問題） 国家試験問題の読解		症例問題（国家試験問題）	

18	頭部画像のまとめ 確認テスト	まとめと確認テスト		
19	心電図について (1)	各画像の意義、正常波形の成り立ち		
20	心電図について (2)	肢誘導と胸部誘導から得られる情報について、代表的な不整脈など		
21	心電図について (3) UCG、CAG	虚血性変化、12誘導心電図、心エコー検査、冠状動脈造影検査について		
22	心電図について (4) UCG、CAG	虚血性変化、12誘導心電図、心エコー検査、冠状動脈造影検査について		
23	心電図、UCG、CAGのまとめ 確認テスト	まとめと確認テスト		
24	モニター心電図の読解 (1)	さまざまなモニターECGの波形を読解することで、各不整脈の特徴を捉え、画像所見としてのECGをマスターする		
25	モニター心電図の読解 (2)	さまざまなモニターECGの波形を読解することで、各不整脈の特徴を捉え、画像所見としてのECGをマスターする		
26	胸腹部の画像 (1)	肺水腫と胸水、その原因、胸水と無気肺との画像上での識別について、無気肺、各サインと代表的な陰影など		
27	胸腹部の画像 (2)	肺水腫と胸水、その原因、胸水と無気肺との画像上での識別について、無気肺、各サインと代表的な陰影など		
28	胸腹部画像のまとめ 確認テスト	まとめと確認テスト		
29	胸腹部の画像 (症例問題)	症例問題		
30	症例問題、モニターECGのまとめ	総復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 画像診断コンパクト (医学教育出版社)		期末試験 確認テスト	50% 50%	グループで確認しながら学習する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
老年学		理学療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	宮内 貴志子
授 業 の 概 要				
・ 身体面・精神面・社会面・生活面の観点から高齢者の理解を深めていく。 ・ 老化にともなって生じる障害や病態について理解を深める。 ・ 高齢障害者における理学療法士の役割を考える。				
授業終了時の到達目標				
・ 老化についてのメカニズムを理解する ・ 老年期の身体的変化、精神的変化を理解する。 ・ 高齢者に特有な疾病について理解を深める。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の経験		
時間外に必要な学修				
・ 次回の内容を確認し、テキストを準備し内容を確認し予習する。 ・ 重要ポイントをテキストを通じて復習する。 ・ 高齢化社会についてニュースを通じて関心を持つ。				
回	テ ー マ		内 容	
1	老化と老年病の考え方		・ 老年学の概要・高齢者とは・加齢と老化について	
2	加齢に伴う変化：生理機能		・ 運動機能、感覚機能、平衡機能の低下	
3	加齢に伴う変化：運動機能		・ 生理的機能低下（呼吸・循環・代謝など）	
4	加齢に伴う変化：精神心理面		・ 知能や精神機能の低下	
5	高齢者の健康寿命		・ 介護予防・サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドローム	
6	老年症候群①		・ 老年症候群と生活機能障害 ・ 老年症候群と評価方法について	
7	老年症候群②		・ 健忘と認知症・うつ症状	
8	老年症候群③		・ 認知症の症状と対応	
9	老年症候群④		・ 運動器機能障害	
10	老年症候群⑤		・ 姿勢の異常と転倒・転倒予防	
11	寝たきり予防		・ 長期臥床と寝たきり・二次的合併症の症状と予防	
12	症例検討		・ 在宅での長期療養患者の介護と理学療法	
13	嚥下機能と誤嚥性肺炎		・ 正常な嚥下機能	
14	誤嚥性肺炎と予防		・ 誤嚥性肺炎の原因と予防	
15	認知症サポーター研修		高松市保健センター職員による研修会	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 配布資料 ・ 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学（医学書院）		期末試験	100%	生理学、病理学の教科書や資料を参照

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
老年学		理学療法学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	坂口 千恵美
授 業 の 概 要				
・ 身体面・精神面・社会面・生活面の観点から高齢者の理解を深めていく。 ・ 老化にともなって生じる障害や病態について理解を深める。 ・ 高齢障害者における理学療法士の役割を考える。				
授業終了時の到達目標				
・ 老化についてのメカニズムを理解する ・ 老年期の身体的変化、精神的変化を理解する。 ・ 高齢者に特有な疾病について理解を深める。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の経験		
時間外に必要な学修				
・ 次回の内容を確認し、テキストを準備し内容を確認し予習する。 ・ 重要ポイントをテキストを通じて復習する。 ・ 高齢化社会についてニュースを通じて関心を持つ。				
回	テ ー マ		内 容	
1	老化と老年病の考え方		・ 老年学の概要・高齢者とは・加齢と老化について	
2	加齢に伴う変化：生理機能		・ 運動機能、感覚機能、平衡機能の低下	
3	加齢に伴う変化：運動機能		・ 生理的機能低下（呼吸・循環・代謝など）	
4	加齢に伴う変化：精神心理面		・ 知能や精神機能の低下	
5	高齢者の健康寿命		・ 介護予防・サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドローム	
6	老年症候群①		・ 老年症候群と生活機能障害 ・ 老年症候群と評価方法について	
7	老年症候群②		・ 健忘と認知症・うつ症状	
8	老年症候群③		・ 認知症の症状と対応	
9	老年症候群④		・ 運動器機能障害	
10	老年症候群⑤		・ 姿勢の異常と転倒・転倒予防	
11	寝たきり予防		・ 長期臥床と寝たきり・二次的合併症の症状と予防	
12	症例検討		・ 在宅での長期療養患者の介護と理学療法	
13	嚥下機能と誤嚥性肺炎		・ 正常な嚥下機能	
14	誤嚥性肺炎と予防		・ 誤嚥性肺炎の原因と予防	
15	まとめ		知識の定着と、期末試験対策	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 配布資料 ・ 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学（医学書院）		期末試験	100%	生理学、病理学の教科書や資料を参照

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
病理学		理学療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	坂口 千恵美
授 業 の 概 要				
医学一般について幅広く知識を求めていく学問であり、疾患を理解するための基本的な用語を理解する。また病理学の一端を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ 基本的な専門用語とその意味や定義などを理解する。 ・ 病理学の国試問題を解ける知識を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の経験		
時間外に必要な学修				
生化学、解剖生理学の復習				
回	テ ー マ		内 容	
1	病因論1		外因：物理的要因 ・ 科学的要因 ・ 栄養障害 ・ 生物学的要因 ／ 内因：年齢、性差、人種地域 ・ 染色体・遺伝子異常	
2	退行性病変・進行性病変 1		退行性病変：変性 ・ 萎縮 ・ 細胞死	
3	退行性病変・進行性病変 2		進行性病変：肥大と過形成 ・ 化生 ・ 異形成 ・ 再生と創傷治癒	
4	創傷治癒・骨折治癒過程		創傷治癒について 骨折治癒過程について	
5	循環障害		体液循環の機構、局所の循環障害（充血とうっ血、浮腫、出血、血栓症、塞栓症、虚血と梗塞）	
6	循環障害 2		浮腫（水腫）、全身の循環障害（高血圧・肺高血圧症・門脈循環・低血圧症）	
7	感染症		感染症とは、感染症の成立、微生物の感染経路・様式	
8	免疫 1		免疫の概念免疫の成立	
9	免疫 2・アレルギー		アレルギー・免疫反応がもたらす障害・疾患 移植・血液の不適合	
10	炎症 1		炎症とは、炎症の原因、体液性因子、炎症の経時的変化	
11	炎症 2		炎症の種類、炎症の全身への影響、炎症の転帰	
12	代謝異常1		糖質代謝異常、蛋白質代謝異常	
13	代謝異常2		脂質代謝異常、その他の代謝異常	
14	腫瘍		良性腫瘍、悪性腫瘍	
15	まとめ		知識の定着の確認。 期末試験対策	
教科書・教材		評価基準		評価率
・ 配布資料		期末試験		100%
				その他
				毎回課題を出題する

保健医療福祉と リハビリテーションの理念

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
リハビリテーション医学概論		理学療法学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	中内 英樹
授 業 の 概 要				
・ 医学の本質を探究し、医療に従事する専門職としての資質を養う。 ・ リハビリテーション医学の本質を探究しながら、リハビリテーション医療の状況把握と今後の発展性について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ 人間の生命に関して、医科学的な立場と生命の価値観の立場から説明できる。 ・ リハビリテーション医療に従事する専門職として、リハビリテーションの理念と今後の発展性について説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期から訪問リハまでの理学療法業務で培った経験を盛り込み教授する。		
時間外に必要な学修				
授業で習った用語をインターネット等で検索し理解を深める。				
回	テ ー マ		内 容	
1	医学とはなにか 医学の起源と発達		・ 医学の定義と構成内容 ・ 古代から近代医学への発達	
2	医療に携わる者の共通認識		・ 医道とは ・ サイエンスとアート	
3	医の倫理		・ 医師の職業倫理 ・ 理学療法士の職業倫理	
4	リハビリテーションの概念と定義		・ リハビリテーションの概念と定義 ・ リハビリテーションの語源と歴史的変遷	
5	リハビリテーションの理念		・ リハビリテーションの理念 ・ トータルリハビリテーション	
6	リハビリテーション専門職種		・ 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士 ・ 対象分野と専門性	
7	リハビリテーションと障害学		・ 健康の定義 ・ 疾病と障害 ・ 廃用性症候群、誤用症候群、過用症候群の予防	
8	障害心理と障害受容		・ 障害心理と防衛機制 ・ 障害受容のステージ理論	
9	疾病と障害の国際分類		・ I C D、 I C I D H、 I C F の理解	
10	日常生活活動（ADL）と生活・人生の質（QOL）の概念		・ ADLの定義と範囲 ・ QOLの概念と定義 ・ ADL評価とQOL評価の意義 ・ ADLとQOLの評価法	
11	リハビリテーションの過程		・ リハビリテーション診療の流れ ・ リハビリテーション評価の流れ	
12	医療保険でのリハビリテーション		・ 急性期リハビリテーション ・ 回復期リハビリテーション	
13	介護保険でのリハビリテーション		・ 介護保険施設でのリハビリテーション ・ 居宅・通所サービスでのリハビリテーション	
14	地域リハビリテーション		・ 地域包括ケアシステムの概要 ・ 多職種連携の理解 ・ 自立と就労支援	
15	リハビリテーション概論まとめ		・ 知識整理 ・ 国家試験問題演習	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
リハビリテーション概論（永井書店） 配布プリント		期末試験	100%	【準備学習】 使用された語句の意味を復習する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法概論		理学療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	中内 英樹
授 業 の 概 要				
・ 理学療法の歴史と発展の背景、現状を把握し、今後の発展性について学ぶ。 ・ 理学療法士の使命と倫理を法的根拠を基に理解し、理学療法士に求められる資質を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ 理学療法の概要、魅力、可能性について説明することができる。 ・ 理学療法士に求められる人間像をイメージする。 ・ 自分の目指す理学療法士像を説明できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験 急性期から訪問リハまでの理学療法業務で培った経験を盛り込み教授する。			
時間外に必要な学修				
授業で提示された用語をインターネット等で検索し理解を深める。				
回	テ ー マ	内 容		
1	理学療法とは	・ 理学療法の定義 ・ 諸外国の理学療法 ・ 世界理学療法連盟と日本理学療法士協会の理念		
2	理学療法を構成する技術概要	・ 理学療法の構成 ・ 運動療法と物理療法 ・ 補装具療法		
3	理学療法士に関する法律	・ 理学療法士及び作業療法士法 ・ 理学療法士に関する政令		
4	理学療法士の使命と倫理	・ 理学療法士の使命 ・ ラポール ・ 自己決定権 ・ 守秘義務と個人情報保護		
5	理学療法業務の質の向上	・ EBPT ・ リスク管理と危険予知 患者満足度		
6	理学療法業務の質の管理	・ 医療安全管理 ・ 法的責任と予見回避義務 ・ 感染予防		
7	医療保険制度における理学療法	・ 医療施設の分類と保険医療 ・ 保険医療と理学療法		
8	理学療法と施設基準	・ 疾患別リハビリテーション施設基準 ・ 診療報酬の改正		
9	理学療法の流れ	・ 臨床推論 ・ クリニカルパス ・ POS		
10	理学療法士の職場探求①	・ リハビリテーション分野の職場探求		
11	理学療法士の職場探求②	・ リハビリテーション分野の職場探求		
12	理学療法士の職場探求③	・ リハビリテーション分野の職場探求		
13	理学療法士の職場探求④	・ リハビリテーション分野の職場探求		
14	理学療法士としての未来	・ 未来の職場で求められる態度・知識・技術の情報共有		
15	理学療法教育	・ 卒前教育の到達目標 ・ 診療参加型臨床実習教育 ・ C B T、O S C E ・ 卒後教育システム		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
理学療法概論(南江堂) 配布プリント		期末試験	100%	【準備学習】 使用された語句の 意味を復習する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保健医療福祉論		理学療法学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	菅原 健太郎
授 業 の 概 要				
・日本の社会保障制度、特にリハビリテーションに関係の深い保険（保健）制度、医療制度、福祉制度における概要と各々の問題点を諸外国と対比しながら理解を深める。				
授業終了時の到達目標				
・日本の社会保障制度の背景を理解する。 ・リハビリテーションと各制度の関連性を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 病院勤務経験をもとに授業を進める。			
時間外に必要な学修				
課題についてグループワークで理解を深める。				
回	テ ー マ		内 容	
1	社会保障制度と構造改革（1）		・社会保障制度について ・日本国憲法25条について	
2	社会保障制度と構造改革（2）		・社会保障制度概要 ・高齢化の特徴 ・社会保障の構造改革 ・少子化対策	
3	社会保障費と医療財政 医療保険制度		・社会保障費と医療財政について ・医療保険制度について	
4	診療報酬支払い制度 医療提供体制		・診療報酬支払い制度について ・医療提供体制について	
5	他職種連携と地域連携		・他職種連携のありかた ・地域包括ケアシステムと療法士の役割	
6	老人の医療と福祉		・老人保健法と老人福祉法について ・ゴールドプラン ・介護保険制度	
7	介護保険制度概要		・介護保険制度概要 ・地域包括ケアシステムについて	
8	介護保険制度		・介護保険制度について	
9	社会保障制度の概念を理解する（1）		・社会保障制度の各種保険について（グループ学習）	
10	社会保障制度の概念を理解する（2）		・社会保障制度の各種保険について（グループ学習）	
11	社会保障制度の概念を理解する（3）		・社会保障制度の各種保険について（グループ学習）	
12	社会保障制度の概念を理解する（4）		・社会保障制度の各種保険について（グループ学習）	
13	社会保障制度について発表（1）		・社会保障制度の各種保険について（グループ発表）	
14	社会保障制度について発表（2）		・社会保障制度の各種保険について（グループ発表）	
15	まとめ		・復習	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
公衆衛生がみえる（メディックメディア）		期末試験 課題発表	50% 50%	社会情勢、特に政治、経済、保健、医療に関わる情報収集に努める。

基礎理学療法学

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎理学療法学Ⅰ		理学療学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	横川 光代
授 業 の 概 要				
・骨、関節、軟骨組織の構造を学び、それらの治癒過程とバイオメカニクスの総論を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・骨の組織構造、骨折の分類、骨の治癒過程を説明することができる。 ・関節軟骨の組織構造、軟骨の損傷と修復過程を説明することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 骨・関節・軟骨の構造、治癒過程と臨床症状を関連づけて指導する。			
時間外に必要な学修				
テキストを用いて次回の授業内容を予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	長管骨の機能と基本構造、骨の組成（細胞的要素）について		・骨の機能（支持・保護・運動・貯蔵・造血） ・長管骨の基本構造と組成（細胞性要素と細胞間質）	
2	細胞間質要素について学ぶ 骨の形成・改変過程について		・細胞間質の構成要素, コラーゲン線維の合成過程 ・緻密骨、海綿骨の形成と骨改変過程	
3	骨の成長とモデリング 骨代謝について		・骨の成長と力学的要求に伴うモデリングとリモデリング ・骨代謝における骨の吸収と形成連関	
4	骨によるカルシウムとリンの貯蔵と放出		・カルシウムの摂取と排泄 ・ビタミンとホルモンによるカルシウムの全身的調整	
5	骨折の分類とその特徴 骨折に伴う合併症		・部位・程度・骨折線の走行・転位による骨折分類 ・骨折に伴って起こる合併症（神経損傷、感染等）	
6	一次性骨癒合の過程と条件 二次性骨癒合の過程とその条件		・一次性骨癒合の治癒過程とHaversian modeling ・二次性骨癒合の治癒過程と仮骨形成	
7	海綿骨の骨癒合について 骨折治療における観血的治療の方法		・海綿骨の骨癒合について ・骨折治療における観血的治療の方法について	
8	骨移植の病態生理について		・骨移植の分類と移植材料について ・骨移植の病態生理	
9	軟骨の構造および組成 軟骨破壊のメカニズムについて		・関節軟骨の組成（細胞と基質）と機能 ・メカニカルストレスによる軟骨破壊の過程	
10	軟骨の代謝と加齢による変化 軟骨損傷と自己修復機序		・軟骨の代謝回転と増殖因子 ・外傷や不動による軟骨損傷の程度と修復機序	
11	関節包の構造と機能 関節不動・外傷による関節包の変化		・関節包の線維膜、滑膜の構造と働き ・関節不動や術後、外傷後の関節包の変化	
12	滑液の組成と正常生理 関節不動・外傷による滑液の変化		・滑液の組成と疾患による変化 ・滑液の産生・運搬・吸収機構	
13	関節軟骨の破壊と滑膜炎について 関節炎と関節水腫の関係、各疾患の特徴		・関節炎の分類 ・関節炎による滑膜血液関門の破綻と関節水症	
14	滑液包の構造と滑液包炎について 膝関節水腫に対する理学療法		・滑液包の構造と分類、病理組織所見 ・膝関節水腫に対する理学療法評価と治療	
15	まとめ 試験対策		全体のまとめ・復習	
教科書・教材			評価基準	評価率
・機能障害科学入門（九州神陵文庫） ・配布資料			期末試験	100%
				準備として1年次の骨・関節の解剖と機能を復習

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎理学療法学Ⅱ		理学療学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	菅原 健太郎
授 業 の 概 要				
・皮膚、靱帯、腱、筋、末梢神経の構造と機能を学ぶ。 ・皮膚、靱帯、腱、筋、末梢神経の損傷と治癒過程を学ぶ。 ・皮膚、靱帯、腱、筋、末梢神経が損傷されるメカニズム（バイオメカニクス）を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・皮膚、靱帯、腱、筋、末梢神経の構造と機能を説明できる。 ・皮膚、靱帯、腱、筋、末梢神経の損傷と治癒過程を説明できる。 ・皮膚、靱帯、腱、筋、末梢神経が損傷されるメカニズ（バイオメカニクス）を説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 病院勤務経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。			
時間外に必要な学修				
1年次に履修した解剖学（骨関節系）と運動学を復習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	靱帯損傷の治癒過程 膝十字靱帯のバイオメカニクス		・靱帯の機能解剖 ・靱帯損傷後の治癒過程 ・十字靱帯の物性、弛緩性、不安定性 ・再建材料の強度	
2	ACL再建術の基礎となるバイオメカニクス		・前方制動性・線維束間の機能分担 ・屈曲伸展に伴う張力変化・移植腱固定に必要な初期張力	
3	膝十字靱帯再建術におけるバイオメカニクスの応用		・十字靱帯の長さ変化・十字靱帯のisometry ・力学的環境が十字靱帯に与える影響	
4	膝屈筋腱を用いた膝前十字靱帯再建術		・各手術手技と理学療法のポイント	
5	膝屈筋腱を用いた膝前十字靱帯再建術		・各手術手技と理学療法のポイント	
6	腱損傷の治癒過程 アキレス腱損傷について		・腱の機能解剖 ・腱損傷後の治癒過程 ・アキレス腱損傷後の修復過程	
7	アキレス腱損傷の保存療法 アキレス腱損傷の術後療法		・手術手技と理学療法のポイント	
8	筋の構造と筋損傷		・筋の機能解剖 ・筋損傷と遅発性筋痛症	
9	筋の代謝と治癒過程		・筋の代謝 ・筋損傷の治癒過程	
10	廃用性筋萎縮とサルコペニア		・廃用性筋萎縮と加齢性筋肉減少症の定義の違い ・それぞれの発生機序と効果的なトレーニング	
11	創傷について 創傷の治癒過程		・創傷の定義 ・皮膚の機能解剖 ・創傷とケロイド ・創傷の治癒過程 ・植皮の生着の過程	
12	熱傷について 熱傷の治癒過程		・熱傷の分類 ・熱傷の治癒過程 ・熱傷に対する理学療法	
13	末梢神経の機能解剖 末梢神経損傷の分類機能障害の特徴		・末梢神経の構造、機能、解剖、形態的分類 ・機能障害の特徴と組織の変化	
14	末梢神経の治癒過程		・ワラー変性と再生 ・神経損傷に対する治療	
15	末梢神経損傷に対する理学療法		・理学療法評価 ・運動療法と物理療法	
教科書・教材		評価基準		評価率 その他
・機能障害科学入門（九州神陵文庫）		期末試験		100% 運動学を応用する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎理学療法学Ⅲ		理学療学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	中嶋 志保
授 業 の 概 要				
運動負荷によって生じる身体の変化について、解剖学、生理学の知識を基礎に、その現象と仕組みを学習する。				
授業終了時の到達目標				
・ 運動時の骨格筋系、呼吸循環器系、神経系、代謝系の正常な応答を理解できる。 ・ 加齢や不活動による骨格筋系、呼吸循環器系、神経系、代謝系の変化を理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 症例を交えて病態をイメージできるように展開する。			
時間外に必要な学修				
解剖生理学の該当範囲と照らし合わせながら復習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	運動を支える身体の仕組みについて		総論）運動発現までの流れ	
2	骨格筋の構造と筋収縮①		筋収縮の仕組み 張力からみた収縮特性	
3	骨格筋の構造と筋収縮②		運動単位 筋収縮の調節	
4	運動とエネルギー源		エネルギーとなる栄養素 エネルギー供給系	
5	運動と呼吸①		呼吸の役割 呼吸のメカニズム	
6	運動と呼吸②		運動に伴う正常な呼吸応答とその調節	
7	運動と呼吸③		トレーニングと呼吸機能 加齢、安静臥床による影響	
8	運動と循環①		循環系の役割	
9	運動と循環②		運動時の循環系の適応	
10	運動と循環③		トレーニングと循環機能 加齢、安静臥床による影響	
11	運動と代謝		運動と代謝調節 運動と代謝の評価	
12	運動と体温調節		運動時の体温調節	
13	運動と加齢		加齢に伴う身体機能の変化 運動と健康	
14	運動処方の基礎		運動処方の原則 運動処方を構成する要素	
15	まとめ		総復習	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 入門 運動生理学（杏林書院）		期末試験	100%	筋収縮の流れや伝導路などを復習しておくこと

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎理学療法学Ⅳ		理学療法学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	村上 匡司
授 業 の 概 要				
・ 炎症と痛みの種類、発生機序や生体内での調節、コントロールについて学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ 炎症と痛みの種類、発生機序や生体内での調節、コントロールを説明することができる。 ・ 基本的な文献検索、文献抄読、レジュメの作成ができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。			
時間外に必要な学修				
生理学の復習。				
回	テ ー マ		内 容	
1	炎症、受容体について 痛みに関する資料作成（1）		炎症の定義、分類、意義、原因など、急性炎症と慢性炎症の特徴、炎症反応、TRP受容体について	
2	痛みの概要について 痛みに関する資料作成（2）		痛みの意味、定義や分類、痛みの伝わり方、侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛、非器質性疼痛、共感など	
3	痛みの経路について 痛みに関する資料作成（3）		侵害受容器、脊髄後角、炎症メディエータについて、ポリモーダル受容器、末梢性感作、中枢性感作など	
4	プレゼンテーションと発問		10分程度の発表と質疑応答 発問から疑問を抽出する	
5				
6				
7	下行性疼痛調整系 文献抄読（1）		痛みの経路のまとめ、オピオイドの観点からの下行性疼痛調整系、脳内ドパミンシステムなどについて	
8	慢性痛について 文献抄読（2）		慢性痛の定義、Biopsychosocial modelについて、痛みの悪循環、薬物療法、慢性痛へのアプローチなど	
9	鎮痛の物理療法、薬物療法 文献抄読（3）		鎮痛に対する物理療法、薬物療法について	
10	頭痛について レジュメ作成（1）		片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛などの特徴、見逃したくない疾患など	
11	胸痛、腹痛について レジュメ作成（2）		胸痛の特徴、腹痛の原因、虫垂炎、機能的消化管障害、腸閉塞など	
12	腰痛について レジュメ作成（3）		腰痛の分類、原因、各疾患の特徴、腰痛の発生源など	
13	レジュメ発表		各自が抄読した文献を冊子として全員に配布し、語彙や共通認識の量を増やす	
14				
15				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 各種書籍、文献等 ・ 機能障害科学入門（九州神陵文庫）		痛みに関連する発表 レジュメ作成 レジュメ発表 期末試験	20% 20% 20% 40%	生理学を復習しておくこと

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
日常生活活動学		理学療法学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	村上 匡司
授 業 の 概 要				
・ 日常生活活動（ADL）の概念と範囲、意義を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ ICIDH、ICFの分類が理解できる。 ・ 動作の観察、記述ができ、ADL指導や環境整備、機器の選定の提案などができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。			
時間外に必要な学修				
日常生活の範囲や動作の要素について考察しておくこと。				
回	テ ー マ		内 容	
1	離床からの評価（1）		適切な自己紹介ができる、意識障害の評価ができる、バイタルサインが確認できる	
2	離床からの評価（2）		呼吸数、酸素飽和度が計測できる、酸素解離曲線が理解できる、問診、聴診の基本ができる	
3	離床からの評価（3）		筋力検査から残存髄節レベル、障害された神経が分かる、ベッドサイドで可能な整形外科的検査ができる	
4	離床からの評価（4）		反射検査ができる、麻痺段階の推定ができる、感覚検査が理解できる	
5	寝返り起き上がり動作		寝返りの要素が理解できる、起き上がりの要素が理解できる、特徴が記述できる	
6	立ち上がり		座位から効率よく立ち上がる動作が理解できる、国家試験問題が解ける、特徴が記述できる	
7	移乗動作		車いすからベッドへの移乗手順が言える、ベッドから車いすへの移乗の介助が安全にできる	
8	歩行動作について		歩行効率について理解できる、階段昇降について指導ができる	
9	住環境整備について		住環境整備の流れ、目的、専門職としての関わり方が模索できる、住宅改修の参考数値など	
10	訪問での視点、アセスメント		諸問題に対して助言が模索できる、訪問時でのアセスメントが理解できる	
11	ICIDHについて		ICIDHの定義が理解できる、問題点の抽出ができる、抽出した問題点が分類できる	
12	ICFについて（1）		ICFの概念が理解できる、分類ができる	
13	ICFについて（2）		ICFの分類が完成できる	
14	FIMについて		FIMの評価が理解できる	
15	まとめ		まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 日常生活活動学テキスト（南江堂）		実習・実技評価 課題・レポート	20% 80%	急性期から在宅までの一連の流れをつかむ

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法研究論		理学療法学科／2年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	菅原 健太郎
授 業 の 概 要				
・ 研究論文の構成や内容を理解し、研究手法を身につけ、研究課題に取り組む。				
授業終了時の到達目標				
・ 理学療法士として研究の必要性を理解し、指導者の助言・指導を受けながら、基本的な研究発表を行うことができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		・ 理学療法士として5年以上の実務経験。 ・ 病院での実務経験を生かして学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
・ 既習の情報科学、統計学を復習しておくこと。				
回	テ ー マ		内 容	
1	研究企画①		グループと研究テーマの決定	
2	研究企画②		研究計画と仮説の立案	
3	研究企画③		研究計画書の作成	
4	研究実施①		データ収集期間	
5	研究実施②		データ収集期間	
6	研究実施③		データ収集期間	
7	研究実施④		データ収集期間	
8	研究実施⑤		データ収集期間	
9	研究実施⑥		データ収集期間	
10	研究実施⑦		データ収集期間	
11	研究実施⑧		データ収集期間	
12	研究実施⑨		レポート作成と発表準備	
13	発表会①		発表とフィードバック	
14	発表会②		発表とフィードバック	
15	発表会③		発表とフィードバック	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
PT・OTのための臨床研究はじめの一步（羊土社）		提出物 発表、授業への取り組み	50% 50%	統計学の知識を応用する。

作成者:

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法研究論Ⅰ		理学療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	菅原 健太郎
授 業 の 概 要				
文献検索の方法を学び、抄読の習慣化、文献検索能力を高める。 参考文献、引用文献の意味を理解し、理学療法研究論2、3に繋げていく。				
授業終了時の到達目標				
・文献、論文をスムーズに読み、読解できる。 ・必要な文献を検索できるようになる。・作者の意図、研究結果を読み取ることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の経験あり□			
時間外に必要な学修				
読書習慣をつける				
回	テ ー マ	内 容		
1	レポート・論文の基礎知識①	1. 論文の組み立て方 2. 小論文・レポート・論文の違い		
2	レポート・論文の基礎知識②	3. レポート・論文は研修の「入口」 4. レポート・論文に必要なこと 5. レポート・論文の2つの型		
3	レポート・論文の準備 ～心構えから準備まで～①	1. 手を付ける前の「心構え」 2. 課題の内容を最初に理解する 3. レポート・論文のテーマの見つけ方		
4	レポート・論文の準備 ～心構えから準備まで～②	4. 調査の開始 5 自分で感じる 6. インターネット検索		
5	レポート・論文の準備 ～心構えから準備まで～③	7. 図書館で文献検索 8. その他の情報の探し方 9. 統計データやアンケートを扱う際の注意点		
6	レポート・論文の準備～資料の読み込みから問題整理まで～	1. 問題点を絞り込む 2. 問いを立てる 3. アウトラインを作成する		
7	組み立てて執筆する①	1. 事実と意見を明確に仕分けする 2. 構成を決める 3. 書式・文体などのルールを知る		
8	組み立てて執筆する①	4. 執筆する（序論・本論） 5. 用語を定義する		
9	組み立てて執筆する②	6. 本論をどう組み立てて、結果を導き出すか 7. 本論に図表を挿入する		
10	文章表現の向上①	200字作文できっちり段落構成		
11	文章表現の向上②	理論的で読みやすく仕上げる20のポイント		
12	引用・参考文献を正しく取りあつかう①	1. 文献などを正しく引用する 2. 剽窃（盗用）になっていないか検証する 3. 参考文献の書き方		
13	引用・参考文献を正しく取りあつかう②	4. 書き上げたレポート・論文の見直し 5. レポート・論文はどのように評価を受けるか		
14	文献の要約発表①	要約した文献のプレゼンテーション①		
15	文献の要約発表②	要約した文献のプレゼンテーション②		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
はじめてでも、ふたたびでも、これならできる！レポート・論文のまとめ方（すばる舎）		期末試験	100.0%	研究論Ⅱ～Ⅳに継続的に学んでいく教科

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
スポーツ科学Ⅰ		理学療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	菅原 健太郎
授 業 の 概 要				
スポーツ現場における論文の活用について学ぶ。 また、スポーツ科学分野の中で特に必要とされる体力の中から「視力」「筋力」「持久力」「瞬発力」「跳躍力」の5大基礎体力の測定方法を学修する。				
授業終了時の到達目標				
・ 論文の構成や執筆手順が理解できる。 ・ スポーツビジョンが運動パフォーマンスに与える影響について説明できる。 ・ 身体組成、視力、スポーツビジョン、筋力、持久力、瞬発力、跳躍力の測定方法が理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修				
・ 統計学で学習した内容を復習する。 ・ 体表面解剖学等で学習する骨格筋を正確に覚える。				
回	テ ー マ		内 容	
1	論文を読むことのメリット		論文が掲載されるまでの過程，論文を検索する	
2	論文の読み方		要約，緒言，方法，結果，考察	
3	よく出てくる統計の種類		統計の種類・解釈，評価基準の作成方法	
4	測定実習		身体組成＆視力 測定方法理解	
5	測定実習		跳躍力＆瞬発力 測定方法理解	
6	測定実習		筋力 測定方法理解	
7	測定実習		持久力 測定方法理解	
8	測定実習		測定結果のFB方法理解	
9	スポーツビジョンとは		スポーツビジョンの項目，スポーツ選手の見る力	
10	ものが見えるメカニズム，スポーツビジョンと競技パフォーマンス		眼球の構造，スポーツと関連する眼の機能	
11	眼の保護，スポーツビジョンのトレーニング		スポーツビジョン測定・評価実習	
12	視力測定実習		ラボでの実習（スポーツビジョン（と跳躍：人数が多い場合））	
13	視力測定実習		ラボでの実習（スポーツビジョン（と跳躍：人数が多い場合））	
14	視力測定実習		ラボでの実習（スポーツビジョン（と跳躍：人数が多い場合））FB	
15	講義のまとめ		講義の重要ポイントの再確認	
教科書・教材		評価基準		評価率
スポーツ科学トレーナーの教科書（NP0法人スポーツ科学トレーナー学院）		期末試験		100%
				その他 実習では積極的に参加すること

理学療法管理学

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
理学療法管理学		理学療法学科／3年	2025／前期	講義	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	2単位（30時間）	必須	坂口 千恵美	
授 業 の 概 要					
学生諸君が臨床場面に接するにあたり、適切な理学療法サービスを効率よく安全に提供するための管理学（マネジメント）の視点を養う。					
授業終了時の到達目標					
・リハビリテーション部門の業務内容を説明できる。 ・経営、人事、労務、人材育成の管理体制について説明できる。 ・理学療法士としてのキャリアデザインを作成できる。					
実務経験有無		実務経験内容			
有		理学療法士として5年以上の実務経験			
時間外に必要な学修					
これまでの臨地実習のデイリーノートや学生カルテを読み直しておく。					
回	テ ー マ		内 容		
1	総論		理学療法管理学の源流・理学療法管理学が必要とされる背景・理学療法管理学の構成内容		
2	病院の分類と組織		「医療法」における医療と医療圏、医療機関・病院内の組織とその役割		
3	専門職とチームケア		チームケアの必要性和その背景・専門職・医療におけるケアチームや各種委員会		
4	社会保障のしくみ		社会保障の構成要素とその役割・保険料を財源とする社会保険・税金を財源とする公的扶助、社会福祉、公衆衛生		
5	医療保険制度		医療保険制度の歴史・国民医療費・医療保険制度の体系とその概要		
6	介護保険制度		介護保険制度の特徴・介護保険制度の対象・申請から要介護認定を受けるまで・ケアプランの作成からサービス利用		
7	診療・介護報酬と収益構造		医療の値段・リハビリテーションの値段・診療報酬の支払いのしくみ・介護の値段		
8	保険・医療・介護・福祉の連携		保健・医療・介護・福祉の連携の概要 保険と医療の連携		
9	業務管理		理学療法士の業務の流れ・他職種との連携・業務、労務管理・人事考課		
10	情報管理		理学療法の業務に必要な情報と診療記録の分類 理学療法の業務に必要な記録とその管理		
11	リスク管理		医療・介護におけるコンプライアンス インシデントとアクシデント		
12	感染症管理		感染と感染症・感染症の構成要素 感染症の予防・医療機関にいける感染対策		
13	権利擁護と職業倫理		インフォームドコンセント（説明と同意） 個人情報保護		
14	教育管理		理学療法教育の歴史・臨床実習の管理・臨床実習の評価方法・臨床教育の管理		
15	理学療法士の政治・政策への関与		理学療法士が政治に関与しなければならない理由・職能団体としての政治への関与		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
理学療法管理学（15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト）			期末試験	100%	出席点も加味する

理学療法評価学

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法評価学Ⅰ		理学療法学科／1年	2024／後期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	中嶋 志保
授 業 の 概 要				
理学療法評価の意義、目的と理学療法領域に必要な基本的身体機能検査法について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・医療情報収集の方法を理解する。 ・形態測定、関節可動域測定、反射検査が手順に沿って実施できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実践を通して身につく授業を展開する。			
時間外に必要な学修				
学習した検査法について空き時間を利用して自主的に練習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	総論		理学療法における評価の意義、目的 評価の過程	
2	情報収集①		医学情報の定義 病歴のとり方、心理状態への配慮	
3	情報収集②		観察 問診（医療面接）の目的と内容	
4	情報収集③		問診実施までの準備	
5	情報収集④		問診の実施と記録	
6	情報収集⑤		ロールプレイ	
7	形態測定①		形態測定の意義 形態測定の種類	
8	形態測定②		四肢長・周径 結果の記録	
9	形態測定③		四肢長・周径と結果の解釈 疾患と形態測定	
10	形態測定④		グループ学習とチェックシートによる採点	
11	関節可動域測定①		関節可動域測定の定義と目的 身体の基本肢位と運動方向の復習	
12	関節可動域測定②		関節可動域の制限因子	
13	関節可動域測定③		肩甲帯・肩関節・肘関節・前腕・手関節	
14	関節可動域測定④		肩甲帯・肩関節・肘関節・前腕・手関節	
15	関節可動域測定⑤		肩甲帯・肩関節・肘関節・前腕・手関節	

回	テ ー マ	内 容		
16	関節可動域測定⑥	グループ学習とチェックシートによる採点		
17	関節可動域測定⑦	股関節・膝関節・足関節		
18	関節可動域測定⑧	股関節・膝関節・足関節		
19	関節可動域測定⑨	体幹		
20	関節可動域測定⑩	グループ学習とチェックシートによる採点		
21	知覚検査①	知覚の分類と解剖生理学的理解		
22	知覚検査②	表在感覚・深部感覚・複合感覚検査 結果の判定と記録		
23	知覚検査③	疾患（病態）と感覚障害		
24	知覚検査④	グループ学習とチェックシートによる採点		
25	深部腱反射・病的反射①	反射の生理学的理解		
26	深部腱反射・病的反射②	表在反射・深部腱反射・病的反射 結果の判定と記録		
27	深部腱反射・病的反射③	反射の異常と解釈 疾患（病態）と反射		
28	深部腱反射・病的反射④	グループ学習とチェックシートによる採点		
29	まとめ①	症例提示 評価項目の選択と評価計画		
30	まとめ②	ロールプレイ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
CrossLink 理学療法学テキスト 理学療法評価学（メジカルビュー社）		小テスト 期末試験	20% 80%	解剖学・生理学・ 運動学と併せて復 習する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法評価学Ⅱ		理学療法学科／2年	2025／前期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	横川 光代
授 業 の 概 要				
理学療法評価の意義、目的と理学療法領域に必要な各種検査測定について学ぶ				
授業終了時の到達目標				
・各種検査測定の目的が説明できる。 ・徒手筋力検査法を正しい方法に従って実施でき、結果を判断することができる。 ・バランス検査、筋トヌス検査を正しく実施でき、判断基準を説明することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実践を通して身につく授業を展開する。			
時間外に必要な学修				
・検査技術の習熟度を上げる為、時間外にも自主的に実技練習に取り組む。				
回	テ ー マ		内 容	
1	筋力検査とは		・筋力検査の目的、分類、各検査法 ・徒手筋力検査法の段階づけシステムについて	
2	徒手筋力検査法①		・検査実技 ・肩甲骨：外転と上方回旋、挙上、内転	
3	徒手筋力検査法②		・検査実技 ・肩甲骨：下制と内転、内転と下方回旋、下制	
4	徒手筋力検査法③		・検査実技 ・肩関節：屈曲、伸展、外転	
5	徒手筋力検査法④		・検査実技 ・肩関節：水平外転、水平内転、外旋、内旋	
6	徒手筋力検査法⑤		・検査実技 ・股関節：屈曲、屈曲・外転、伸展 ・小テスト①	
7	徒手筋力検査法⑥		・検査実技 ・股関節：外転、屈曲位からの外転、内転	
8	徒手筋力検査法⑦		・検査実技 ・股関節：外旋、内旋 膝関節：屈曲	
9	徒手筋力検査法⑧		・検査実技 ・肘関節：屈曲 前腕：回外、回内	
10	徒手筋力検査法⑨		・検査実技 ・手関節：屈曲、伸展、 手指：MP関節屈曲、伸展	
11	徒手筋力検査法⑩		・検査実技 ・手指：PIP・DIP関節屈曲 指外転、指内転 ・小テスト②	
12	徒手筋力検査法⑪		・検査実技 ・前半の徒手筋力検査法の復習	
13	徒手筋力検査法⑫		・検査実技 ・母指：MP・IP関節屈曲、伸展、外転、内転、対立	
14	徒手筋力検査法⑬		・検査実技 ・膝関節：伸展 足関節：底屈、背屈ならびに内がえし	

回	テ ー マ	内 容		
15	徒手筋力検査法⑭	・ 検査実技 ・ 足：内がえし、底屈を伴う外がえし、母趾と足ゆびのMP関節屈曲		
16	徒手筋力検査法⑮ 小テスト③	・ 検査実技 ・ 母趾と足ゆびのDIP・PIP関節屈曲、MP・IP関節伸展 ・ 小テスト③		
17	徒手筋力検査法⑯	・ 検査実技 ・ 頸部筋のテスト①		
18	徒手筋力検査法⑰	・ 検査実技 ・ 頸部筋のテスト②		
19	徒手筋力検査法⑱	・ 検査実技 ・ 体幹部のテスト①		
20	徒手筋力検査法⑲	・ 検査実技 ・ 体幹部のテスト②		
21	徒手筋力検査法⑳ 小テスト④	・ 検査実技 ・ 脳神経支配筋のテスト ・ 小テスト④		
22	徒手筋力検査法㉑	・ 検査実技 ・ 脳神経支配筋のテスト		
23	徒手筋力検査法㉒	・ 検査実技 ・ 後半の徒手筋力検査法の復習		
24	整形外科疾患検査①	・ 代表的整形外科疾患検査 ・ 模擬患者を用いて事例検討		
25	整形外科疾患検査②	・ 代表的整形外科疾患検査 ・ 模擬患者を用いて事例検討		
26	バランステスト	・ バランスとは（静的バランスと動的バランス） ・ 各バランステスト（Romberg試験、Mann試験等） ・ 小テスト⑤		
27	筋トーヌス検査①	・ 筋トーヌス（緊張）とは ・ 筋トーヌスの診断（Ashworthの痙性スケール）		
28	筋トーヌス検査②	・ 筋トーヌスの実際（被動性検査と懸振性検査） ・ 筋強剛の検査		
29	事例検討①	・ 中枢神経疾患に対する徒手筋力検査法 ・ 筋緊張検査		
30	事例検討② まとめ	・ 整形外科疾患に対する徒手筋力検査法 ・ 整形外科疾患検査		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 理学療法評価学（金原出版） ・ 徒手筋力検査法 第10版（共同医書）		小テスト 実技試験	50% 50%	実技の復習を自宅 でも行う事

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法評価学Ⅲ		理学療法学科／2年	2025／後期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	村上 匡司
授 業 の 概 要				
・ 評価の概要を理解する。 ・ 評価項目の抽出、選択を行い手技を確認する。				
授業終了時の到達目標				
各疾患についての基本的な評価を行うことができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。			
時間外に必要な学修				
評価手技の練習。				
回	テ ー マ		内 容	
1	分離運動の評価（1）		片麻痺運動障害の特徴、Brunnstrom test、SIASなど、各検査方法について	
2	分離運動の評価（2）		片麻痺運動障害の特徴、Brunnstrom test、SIASなど、各検査方法について	
3	分離運動の評価（3）		片麻痺運動障害の特徴、Brunnstrom test、SIASなど、各検査方法について	
4	分離運動の評価（4）		片麻痺運動障害の特徴、Brunnstrom test、SIASなど、各検査方法について	
5	分離運動の評価（5）		片麻痺運動障害の特徴、Brunnstrom test、SIASなど、各検査方法について	
6	脳神経検査（1）		脳神経の働き、障害より現れる徴候、脳神経検査方法について	
7	脳神経検査（2）		脳神経の働き、障害より現れる徴候、脳神経検査方法について	
8	脳神経検査（3）		脳神経の働き、障害より現れる徴候、脳神経検査方法について	
9	高次脳機能検査（1）		各障害とその検査法について	
10	高次脳機能検査（2）		各障害とその検査法について	
11	協調性検査（1）		脊髄性失調、迷路性失調、小脳性失調、大脳性失調について、各検査方法について	
12	協調性検査（2）		脊髄性失調、迷路性失調、小脳性失調、大脳性失調について、各検査方法について	
13	協調性検査（3）		脊髄性失調、迷路性失調、小脳性失調、大脳性失調について、各検査方法について	
14	姿勢反射検査、正常発達		姿勢反射のレベル、姿勢反射の概要、正常発達について	
15	日常生活活動（動作）検査		FIMのまとめと国家試験問題の解説	
教科書・教材			評価基準	評価率
・ 理学療法評価学（MEDICAL VIEW）			実習・実技評価	100%
				その他
				実技試験はランダムに抽選、すべてを練習する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動作分析セミナー		理学療法学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	横川 光代
授 業 の 概 要				
・ 動作分析の概要及び方法論を教授する。 ・ 起立動作や歩行を分析するための理論と方法を教授する。 ・ 事例を通して臨床的思考と問題解決を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ 起立動作・歩行動作を運動学的・運動力学的・筋電学的に説明できる。 ・ 動作障害の原因の仮説立案ができる。 ・ 得られた情報を利用して統合と解釈ができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 自身の臨床例を用いて分析のポイントを指導する。			
時間外に必要な学修				
授業テキストを用いて、分析に必要な内容を予習する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	動作分析とは 概要	動作分析を何故行うのか、何故重要なのかを理解する		
2	運動学的分析	動作を運動学的思考を用いて評価・分析する		
3	運動力学的分析	動作を運動力学的思考を用いて評価・分析する		
4	筋電図学的分析	動作を筋電図学的思考を用いて評価・分析する		
5	起立動作の基礎	座位から起立までの一連の動きを運動学・力学・筋電図を用いて理解する		
6	起立動作分析のポイント	機能障害別の起立動作を理解する		
7	歩行の基礎	正常歩行を運動学・力学・筋電図を用いて理解する		
8	歩行分析のポイント	歩行分析を行う際の着目点を理解する		
9	異常歩行	各異常歩行とその構造を解剖学的・運動学的視点で理解する		
10	階段昇降の基礎	階段昇降を運動学・力学・筋電図を用いて理解する		
11	階段昇降動作分析	機能障害別の階段昇降の特徴を理解する		
12	事例検討①	提示した症例の歩行を観察し、記録を作成する		
13	事例検討②	異常歩行の原因を分析する為に必要な評価項目を収集する		
14	事例検討③	観察した結果と情報を統合し、予後予測を行い必要な訓練や歩行補助具を選定する		
15	発表・まとめ	グループ毎に発表し、より良い方法を選択する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 動作分析臨床活用講座 （メジカルビュー）		期末試験	100%	教科書を中心に進行するため、予習しておくこと。

理学療法治療学

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動療法学		理学療法学科／2年	2025／前期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位（90時間）	必須	宮内 貴志子
授 業 の 概 要				
・ 主要な障害の仕組みを教授する。 ・ 主要な障害に対する評価の理論と方法を教授する。				
授業終了時の到達目標				
・ 運動療法の概要を説明できる。 ・ 運動療法を実施する際に必要なリスク管理について説明できる。 ・ 主要な障害の仕組みを説明できる。 ・ 主要な障害に対する評価を実施できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験 急性期から通所・在宅リハまでの幅広い経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。			
時間外に必要な学修				
神経・筋・呼吸・循環の生理学と運動生理学を復習する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	総論 1	運動療法の歴史 運動療法の定義と分類		
2	総論 2	運動療法の適応と禁忌		
3	総論 3	運動療法の手順 トレーニング基礎理論		
4	関節可動障害 1	関節可動障害に関係する基礎知識		
5	関節可動障害 2	関節可動域運動の目的と種類		
6	関節可動障害に対する運動療法 1	関節可動障害の評価 結合組織に対するアプローチ		
7	関節可動障害に対する運動療法 2	骨運動に基づく関節可動域訓練		
8	関節可動障害に対する運動療法 3	関節包内運動に基づく関節可動域訓練		
9	関節可動障害に対する運動療法 4	ストレッチングによる関節可動域訓練		
10	関節可動障害に対する運動療法 5	症例トレーニング		
11	筋機能障害 1	筋機能障害に関係する基礎知識		
12	筋機能障害 2	筋力増強の基本原則		
13	筋機能障害 3	筋機能評価		
14	筋力低下に対する運動療法 1	筋力増強訓練の各種方法論		
15	筋力低下に対する運動療法 2	OKCを用いた筋力増強訓練 CKCを用いた筋力増強訓練		
16	姿勢調節障害に対する運動療法 1	姿勢調節障害を改善させる理論		
17	姿勢調節障害に対する運動療法 2	姿勢アライメントの評価と運動療法		
18	姿勢調節障害に対する運動療法 3	姿勢アライメントの評価と運動療法		
19	姿勢調節障害に対する運動療法 4	姿勢アライメントの評価と運動療法		
20	姿勢調節障害に対する運動療法 5	姿勢アライメントの評価と運動療法		

回	テ ー マ	内 容		
21	バランス障害に対する運動療法1	バランス障害の分類と理論背景		
22	バランス障害に対する運動療法2	バランス障害の評価と運動療法		
23	バランス障害に対する運動療法3	バランス障害の評価と運動療法		
24	バランス障害に対する運動療法4	バランス障害の評価と運動療法		
25	バランス障害に対する運動療法5	バランス障害の評価と運動療法		
26	加齢に対する運動療法1	感覚障害の分類と理論背景		
27	加齢に対する運動療法2	高齢者の機能評価と運動療法		
28	加齢に対する運動療法3	高齢者の機能評価と運動療法		
29	加齢に対する運動療法4	高齢者の機能評価と運動療法		
30	加齢に対する運動療法5	高齢者の機能評価と運動療法		
31	痛みに対する運動療法1	痛みの分類と理論背景		
32	痛みに対する運動療法2	痛みに対する評価と運動療法		
33	痛みに対する運動療法3	痛みに対する評価と運動療法		
34	痛みに対する運動療法4	痛みに対する評価と運動療法		
35	痛みに対する運動療法5	痛みに対する評価と運動療法		
36	歩行障害に対する運動療法1	歩行障害の分類と理論背景		
37	歩行障害に対する運動療法2	歩行障害に対する評価と運動療法		
38	歩行障害に対する運動療法3	歩行障害に対する評価と運動療法		
39	歩行障害に対する運動療法4	歩行障害に対する評価と運動療法		
40	歩行障害に対する運動療法5	歩行障害に対する評価と運動療法		
41	筋持久力低下に対する運動療法 1	筋持久力低下を改善させる理論		
42	筋持久力低下に対する運動療法 2	運動療法の実際		
43	全身持久力低下に対する運動療法 1	全身持久力低下を改善させる理論		
44	全身持久力低下に対する運動療法 2	全身持久力低下を改善させる運動療法		
45	まとめ	実技まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
運動療法学 障害別アプローチの理論と実際（文光堂）		中間試験	50%	【準備学習】技術手順の復習を行うこと。
		期末試験	50%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
物理療法学		理学療法学科／2年	2025／後期	演習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	1単位（30時間）	必須	村上 匡司	
授 業 の 概 要					
・ 物理療法の分類、各機器の特性、各種物理的刺激の身体に対する反応を学ぶ。 ・ 実際に機器を使用することで、予測された効果や反応などを確認する。					
授業終了時の到達目標					
・ 生体に対する影響や生理学的根拠を理解し、目的に応じた各種物理療法が選択できる。 ・ 物理療法の一般的効果の説明、適応や禁忌の把握、物理療法機器の安全な使用ができる。					
実務経験有無		実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。				
時間外に必要な学修					
各種療法の禁忌事項を把握しておく。					
回	テ ー マ		内 容		
1	温熱療法について		ホットパック、パラフィン、極超短波、超短波について、温熱の生理的作用、各機器の深達度など		
2	光線療法について		紫外線と赤外線、レーザー光線について、波長と周波数、逆自乗の法則、ランバートの余弦則など		
3	超音波療法について		ERA、BNR、連続波と断続（パルス）波、温熱効果と非温熱効果、吸収係数、半減深度など		
4	寒冷療法について		寒冷刺激の伝導要因、生理学的作用など		
5	水治療法について		水の作用、浮力の影響、水中での身体への影響など		
6	電気刺激療法について		TENS、IFC、NMES、HVPC、MES、FES、電気の特性、モーターポイントについて、確認実験の準備		
7	牽引療法について		牽引の種類、間欠牽引の生理学的効果、牽引方向、股関節屈曲角度について		
8	7班に分かれて以下の各実験を行う ① 赤外線 ② コールドパック ③ 超音波 ④ 超短波 ⑤ 極超短波 ⑥ TENS ⑦ 頸椎牽引もしくは腰椎牽引		各班による実験、計測		
各班による実験、計測					
各班による実験、計測					
各班による実験、計測					
各班による実験、計測					
各班による実験、計測					
各班による実験、計測					
各班による実験、計測					
15			各班による実験、計測		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
・ 物理療法学（医学書院）			レポート 期末試験	50% 50%	実験前には禁忌は覚えておく

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
義肢装具学Ⅰ		理学療法学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	坂口 千恵美
授 業 の 概 要				
・ 切断の原因疾患やその切断術、切断の高位分類とそれに対応する義肢について学ぶ。 ・ 各義足のパーツの機能とバイオメカニクス、アライメント調整方法について学ぶ。 ・ 切断者に対するリハビリテーションについて学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ 切断の原因疾患やその切断術、切断の高位分類とそれに対応する義肢について説明できる ・ 各義足のパーツの機能とバイオメカニクス、アライメント調整方法についてこたえることができる ・ 切断者に対するリハビリテーションについて説明できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験			
時間外に必要な学修				
教科書をしっかり読み込むことが重要。理解できなかったことは、教員へ質問など行い、分からないままにしないこと。				
回	テ ー マ	内 容		
1	義肢総論	・ DVDによる概要の理解 ・ 義肢の構成要素 ・ 義肢の目的義肢の種類		
2	切断の原因と治療	・ 切断者数と切断原因 ・ 外傷、末梢循環障害、悪性腫瘍、先天性奇形		
3	切断部位と切断術	・ 切断と離断 ・ 切断術における各種の処置		
4	切断者の理学療法評価	・ 一般情報 ・ 問診 ・ 全身状態 ・ 身体面 ・ APMスコア ・ 心理面		
5	断端管理	・ 断端管理の目的 ・ 切断から義肢装着までの流れ ・ 断端管理法の特徴と利点、欠点		
6	足部について	・ 義足の基本的構成要素 ・ 足部の構造		
7	膝継手①	・ 膝継手の変遷 ・ 膝継手に求められる機能 ・ 遊脚相制御		
8	膝継手②	・ 立脚相制御 ・ 膝継手部品の選択		
9	股継手	・ 股継手の種類 ・ 股継手の設定位置 ・ 屈曲補助バンパーの機能		
10	下腿義足のソケット サイム義足のソケット	・ ソケットの種類 ・ 体重支持方法、懸垂方法		
11	大腿義足のソケット 膝義足のソケット	・ ソケットの種類 ・ 大腿義足の変遷		
12	下腿義足のアライメント	・ ベンチアライメント ・ スタティックアライメント ・ ダイナミックアライメント		
13	大腿義足のアライメント	・ ベンチアライメント ・ スタティックアライメント ・ ダイナミックアライメント ・ 義足の前方安定性・義足の側方安定性		
14	その他の義足について 義手	・ 股義足のアライメント ・ 膝義足のアライメント ・ サイム義足 ・ 足部切断用義足 ・ 義手		
15	まとめ	・ 国家試験過去問および練習問題を解く		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版 （羊土社）		期末試験 課題	80% 20%	予習の教科書を読んで臨んでほしい

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
義肢装具学Ⅱ		理学療法学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	坂口 千恵美
授 業 の 概 要				
・リハビリテーションにおける装具療法の目的と装具処方の流れを学ぶ。 ・下肢、体幹装具の種類と特徴および適応を学ぶ。 ・脳卒中、下肢骨折、体幹障害、小児疾患の下肢装具療法の処方の考え方とチェックアウトを学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・リハビリテーションにおける装具療法の目的と装具処方の流れを説明できる。 ・各種下肢装具の種類と特徴及び適応を説明できる。 ・脳卒中片麻痺患者に対し下肢装具が処方できる。 ・下肢骨折、体幹障害、代表的な小児疾患の下肢装具療法を説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修				
教科書をしっかり読み込むことが重要。理解できなかったことは、教員へ質問など行い、分からないままにしないこと。				
回	テ ー マ		内 容	
1	装具学総論		・装具の定義 ・装具の英文表記 ・装具の目的と代表例 ・装具の力学的な基礎 ・装具の分類	
2	下肢装具の構成部品とそのチェックアウト		・下肢装具について ・下肢装具のチェックアウト ・代表的な構成部品	
3	足継手の制御機構		・足関節の運動と足継手の動き ・足継手が膝関節へ与える効果 ・底屈制限と背屈制限	
4	疾患別の装具療法 ①脳卒中片麻痺の装具		・長下肢装具 ・プラスチック短下肢装具 ・ストラップと膝あて ・金属支柱付き短下肢装具 ・反張膝防止装具	
5	疾患別の装具療法 ②対麻痺の装具		・対麻痺残存機能と歩行用装具 ・歩行の効果と課題 ・装具を使用した立位 ・対麻痺の下肢装具	
6	疾患別の装具療法 ③整形外科的装具		・整形外科的装具の概略 ・バストバンド ・前十字靱帯損傷用の膝装具 他 ・クラビクルバンド ・免荷装具	
7	疾患別の装具療法 ④頸椎疾患・胸腰椎疾患の装具		・体幹装具の構成要素と適切な位置 ・頸椎装具 ・胸腰仙椎装具 ・仙腸装具	
8	疾患別の装具療法 ⑤末梢神経障害の装具		・手の末梢神経損傷について ・尺骨神経麻痺、橈骨神経麻痺、正中神経麻痺の装具	
9	疾患別の装具療法 ⑥脊柱側弯症の装具		・脊柱側弯症について ・特発性側弯症に対する装具療法 ・脊柱側弯症に対する装具の種類とその特徴	
10	疾患別の装具療法 ⑦小児疾患の装具		・小児疾患とその装具 ・先天性股関節脱臼、ペルテス病、筋ジストロフィー症、脳性麻痺、先天性内反足と装具	
11	疾患別の装具療法 ⑧関節リウマチの装具		・関節リウマチについて ・関節リウマチの装具（上肢装具・下肢装具）	
12	靴型装具		・靴の基本的構造とその補正 ・靴底の補正 ・靴の踵の補正 ・靴の中での補正	
13	義肢装具の給付制度		・義肢装具の給付について ・義肢装具の給付制度 ・義肢装具の制度分類 ・義肢装具の申請方法	
14	短下肢装具装着における歩行分析		・片麻痺患者の歩行でみられる特徴的な現象 ・片麻痺患者の歩行分析	
15	まとめ		・まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版（羊土社）		期末試験 課題	80% 20%	予習の為教科書を読んで臨んでほしい

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
整形外科疾患の理学療法Ⅰ		理学療法学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	横川 光代
授 業 の 概 要				
・ 主な下肢整形外科疾患の理学療法評価並びに治療体系について学ぶ。 ・ 変性疾患を中心に一連の理学療法の流れについて学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ 高齢者の代表的疾患（骨折、変性疾患）に対する評価の流れを理解する。 ・ 下肢の整形外科疾患に対する評価項目のピックアップとその目的を述べるができる。 ・ リスクを考慮した体位変換、運動検査、生活活動検査ができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 整形外科急性期での経験を活かし臨床的思考過程の習得を教授する。			
時間外に必要な学修				
授業資料、テキストを用いて次の授業内容を予習する				
回	テ ー マ		内 容	
1	・ 大腿骨近位部骨折の概要 ・ 大腿骨頸部骨折の分類と治療		・ 大腿骨近位部骨折の疫学・分類 ・ Garden分類と治療法の選択	
2	・ 大腿骨頸部内側骨折の保存療法の考え方		・ 大腿骨頸部内側骨折の臨床的特徴と適応選択基準 ・ 保存療法のプログラム	
3	・ CCHSの手術方法と接合状況のチェックポイント		・ CCHS手術方法 ・ CCHSの接合状況のX-pチェックポイント	
4	・ Hansson pin systemの手術方法と接合状況のチェックポイント		・ Hansson pin systemの手術方法 ・ Hansson pin systemのX-pチェックポイント	
5	・ 骨接合術におけるX-pの異常所見		・ cut out、back out、penetrationの意味 ・ revascularizationとlate segmental collapseの関係	
6	・ 人工骨頭置換術（BHP）の特徴、機構、適応、問題点		・ BHPの工学的理念と時代変遷、バイオメカニクス ・ 大腿骨頸部骨折に対するBHPの適応と問題点	
7	・ BHPの手術手技とX-pでの早期・晩期合併症の見方		・ BHPの手術手技（骨セメント使用） ・ X-pのチェックポイント	
8	・ 大腿骨近位部骨折の周術期管理について		・ 大腿骨頸部内側骨折に対する骨接合術（CCHS法、Hansson pin固定）の後療法プログラム	
9	・ 大腿骨転子部骨折の分類と治療について		・ Evans分類、AO分類、改訂中野分類 ・ 治療法の選択	
10	・ 大腿骨転子部骨折の治療方針について		・ 分類と治療方針の関係 ・ 診断と治療（保存療法と手術療法）	
11	・ SFN法の特徴、代表的機種		・ SFNの代表的機種（ γ -nail、PFN、PFNA、IMHS） ・ 機種による治療方法の比較	
12	・ SFN法の術後合併症の発生機序		・ 術後出血の発生機序 ・ 内反変形と回旋転位の発生機序	
13	・ 大腿骨頸部外側骨折の理学療法		・ 早期リハビリテーションプログラムと早期荷重	
14	・ 人工股関節のデザイン ・ 人工股関節の初期固定性		・ 人工股関節の目的、デザインと機能 ・ 固着、Osteolysisについて	
15	・ 人工股関節全置換術における術後脱臼		・ 人工股関節全置換術の進入法と術後脱臼の関係 ・ 術後脱臼の誘発要因（姿勢、ADL）	

回	テ　　マ	内　　　　　　容		
16	・ セメントレス人工股関節のステム 周辺に見られる継時的変化	・ 初期固定性の判断基準 ・ ストレスシールディング、感染の経過観察方法		
17	・ 人工股関節全置換術後のリハビリ テーション	・ 人工股関節の術後管理 ・ 運動療法、動作訓練の注意点		
18	・ 膝骨壊死症（ON）の形態学的変化 と病態	・ 膝骨壊死症の臨床症状と病態 ・ 変性軟骨の治療法		
19	・ 高位脛骨骨切り術 （closed wedge HT0）	・ closed wedge HT0の適応と手術方法 ・ 術後管理方法とリハビリテーションプログラム		
20	・ 高位脛骨骨切り術 （opening wedge HT0）	・ opening wedge HT0の適応と手術方法 ・ 術後管理方法とリハビリテーションプログラム		
21	・ 人工膝関節単顆型置換術について	・ UKAの歴史と変遷 ・ UKAの適応と手術の選択方法、術式		
22	・ 人工膝関節単顆型置換術の理学療 法について	・ UKAの術後管理の方法、リハビリテーション ・ UKAの術後合併症（脱転、部品下骨折）		
23	・ 人工膝関節全置換術について①	・ TKAの歴史と変遷 ・ TKAの適応と手術の選択方法、術式		
24	・ 人工膝関節全置換術について②	・ TKAの機種による違い ・ 軟部組織バランスの調整と影響		
25	・ 人工膝関節全置換術について③	・ TKAの術後リハビリテーション評価について		
26	・ 人工膝関節全置換術について④	・ TKAの術後リハビリテーション		
27	・ 関節リウマチの病態について	・ 関節リウマチの概念・疫学 ・ 関節リウマチの症状（関節外症状含む）、変形の特徴		
28	・ 関節リウマチの診断について	・ 画像診断　・ 血液所見 ・ Steinbrockerのstage分類、ACRのclass分類		
29	・ 関節リウマチの治療について	・ 薬物療法 ・ 手術療法、装具療法		
30	・ まとめ ・ 試験対策	・ 全体のまとめ・復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 病気がみえるvol.11 運動器・整形外科 （メディックメディア） ・ 運動器疾患の治療とリハビリテーション 手術・保存療法とリハプログラム （メジカルビュー） ・ ここがポイント！整形外科疾患の理学療法第3版 （金原出版）		期末試験	100%	実習場面で必要な 知識です。復習を 行いましょう。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
整形外科疾患の理学療法Ⅱ		理学療法学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	横川 光代
授 業 の 概 要				
・ 主な脊椎・脊髄疾患、上肢疾患の理学療法評価並びに治療体系について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ 脊椎・脊髄疾患、上肢疾患の病態を理解し、適切な評価ができる。 ・ 基本的な治療（保存・手術）に対し、リスクや合併症に留意した理学療法が実施できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 整形外科急性期での経験を活かし臨床的思考過程の習得を教授する。			
時間外に必要な学修				
授業資料、テキストを用いて次回の授業内容を予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	・ 頸椎症の臨床病理 ・ 頸髄症の病態・診断と治療		・ 頸髄症の成因と病態 ・ 臨床症候と病理的变化の理解、各種検査	
2	・ 各伝導路と病態の特徴		・ 各伝導路の理解 ・ 代表疾患における症状の特徴	
3	・ 各高位障害の特徴と症候①		・ C3/4高位の特徴 ・ 頸椎病変による手の症候と歩行障害	
4	・ 各高位障害の特徴と症候②		・ 中下位頸椎の症候、C5/6高位障害の特徴 ・ 神経根症と脊髄症	
5	・ 各高位障害の特徴と症候③		・ 脊髄円錐部の解剖学的特徴 ・ Th11～L1脊髄高位の神経症候	
6	・ 後縦靱帯骨化症 ・ 中心性損傷の症状と治療		・ 骨化症の成因 ・ 骨化症の自然経過と治療方針	
7	・ 脊椎、脊髄疾患に対する画像診断 ・ 頸椎、頸髄疾患の観血的治療		・ 各種疾患の画像診断と画像計測における基準値 ・ 前方、後方アプローチによる各手術方法と問題点	
8	・ 腰痛と下肢の痺れの診断と治療 （腰部脊柱管狭窄症を中心に）		・ 腰部脊柱管狭窄症（LCS）の国際分類 ・ LCSの症状	
9	・ 腰部脊柱管狭窄症の自然経過から みた治療戦略		・ 腰部脊柱管狭窄症の自然経過 ・ 腰椎変性すべり症の発生機序と椎間関節面の関係	
10	・ 腰椎変性すべり症、変性側弯症の 発生機序と治療方針		・ 腰椎変性すべり症と変性側弯症の発生機序 ・ Static factor と Dynamic factor	
11	・ 腰椎椎間板ヘルニアの診療ガイド ライン		・ 疫学、自然経過に関するエビデンス ・ 病態、診断、治療に関するエビデンス	
12	・ 腰椎椎間板ヘルニアの治療に ついて		・ 診断について ・ 手術方法について	
13	・ 腰部疾患術後の理学療法について		・ 術前理学療法・腰部手術所見を見るときのポイント ・ 術後理学療法・腰部手術後の日常生活動作訓練	
14	・ 症例検討①		・ 模擬患者の基本情報より評価項目を考える ・ 評価結果をアセスメントする	
15	・ 症例検討②		・ 評価結果から問題点を考え、ICFで記載する	
16	・ 反復性肩関節脱臼		・ 解剖、原因 ・ 検査 ・ 治療 ・ 禁忌事項 ・ 評価 ・ リハビリテーション	

回	テ ー マ	内 容
17	・ 腱板断裂	・ 解剖、原因 ・ 検査 ・ 治療 ・ 禁忌事項 ・ 評価 ・ リハビリテーション
18	・ 肩関節周囲炎	・ 解剖、原因 ・ 検査 ・ 治療 ・ 禁忌事項 ・ 評価 ・ リハビリテーション
19	・ 上腕骨近位端骨折	・ 解剖、原因 ・ 検査 ・ 治療 ・ 禁忌事項 ・ 評価 ・ リハビリテーション
20	・ 鎖骨骨折	・ 解剖、原因 ・ 検査 ・ 治療 ・ 禁忌事項 ・ 評価 ・ リハビリテーション
21	・ 胸郭出口症候群	・ 解剖、原因 ・ 検査 ・ 治療 ・ 禁忌事項 ・ 評価 ・ リハビリテーション
22	・ 上腕骨顆部、顆上骨折	・ 解剖、原因 ・ 検査 ・ 治療 ・ 禁忌事項 ・ 評価 ・ リハビリテーション
23	・ 肘関節内側側副靱帯損傷	・ 解剖、原因 ・ 検査 ・ 治療 ・ 禁忌事項 ・ 評価 ・ リハビリテーション
24	・ 肘関節複合不安定症	・ 解剖、原因 ・ 検査 ・ 治療 ・ 禁忌事項 ・ 評価 ・ リハビリテーション
25	・ 手指屈筋腱損傷	・ 解剖、原因 ・ 検査 ・ 治療 ・ 禁忌事項 ・ 評価 ・ リハビリテーション
26	・ 橈骨遠位端骨折	・ 解剖、原因 ・ 検査 ・ 治療 ・ 禁忌事項 ・ 評価 ・ リハビリテーション
27	・ 末梢神経損傷	・ 解剖、原因 ・ 検査 ・ 治療 ・ 禁忌事項 ・ 評価 ・ リハビリテーション
28	・ 舟状骨骨折	・ 解剖、原因 ・ 検査 ・ 治療 ・ 禁忌事項 ・ 評価 ・ リハビリテーション
29	・ 手根管症候群	・ 解剖、原因 ・ 検査 ・ 治療 ・ 禁忌事項 ・ 評価 ・ リハビリテーション
30	・ 症例検討	・ 模擬患者情報より、評価・治療内容を列挙する
教科書・教材		評価基準
・ 運動器疾患の治療とリハビリテーション手術・保存療法とリハプログラム（メジカルビュー） ・ ここがポイント！整形外科疾患の理学療法第3版（金原出版） ・ 関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 上肢・体幹（メジカルビュー）		期末試験
		評価率
		100%
		その他
		教科書を中心に進行するため、予習しておくこと。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
整形外科疾患の理学療法Ⅲ		理学療法学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	高尾 隆一・中野 佳輔・中村 俊哉・
授 業 の 概 要				
主なスポーツによる障害の理学療法評価並びに治療体系について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
スポーツによる障害の病態を理解し、適切な評価ができる。 基本的な治療（保存・手術）に対し、リスクや合併症に留意した理学療法が実施できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 整形外科急性期での経験を活かし臨床的思考過程の習得を教授する。		
時間外に必要な学修				
授業資料、テキストを用いて次の授業内容を予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	股・膝関節のスポーツ障害①		・ 鼠径周辺部痛 ・ 梨状筋症候群	
2	股・膝関節のスポーツ障害②		・ 前十字靱帯損傷、後十字靱帯損傷 ・ 内外側側副靱帯損傷	
3	股・膝関節のスポーツ障害③		・ 半月板損傷 ・ 膝蓋腱炎 ・ 膝蓋下脂肪体炎 ・ 膝蓋軟骨軟化症	
4	股・膝関節のスポーツ障害④		・ オスグッドシュラッター病 ・ 腸脛靱帯炎 ・ 鵠足炎	
5	症例検討		事例を用いて評価 - 問題点の把握、治療を経験する	
6	下腿・足部のスポーツ障害①		・ シンスプリント ・ コンパートメント症候群	
7	下腿・足部のスポーツ障害②		・ アキレス腱炎 ・ アキレス腱断裂	
8	下腿・足部のスポーツ障害③		・ 足関節靱帯損傷 ・ 腓骨筋腱脱臼 ・ 腓骨筋炎 ・ 足根洞症候群 ・ 足底筋膜炎	
9	下腿・足部のスポーツ障害④		・ シーバー病 ・ 足関節インピンジメント症候群 ・ 後脛骨筋腱炎 ・ 第5中足骨骨折	
10	症例検討		事例を用いて評価 - 問題点の把握、治療を経験する	
11	肩関節のスポーツ障害①		・ 肩峰下インピンジメント ・ インターナルインピンジメント	
12	肩関節のスポーツ障害②		・ 上腕二頭筋長頭腱炎 ・ 肩鎖関節症	
13	肘・前腕のスポーツ障害①		・ 上腕骨内外側上顆炎 ・ 三角線維軟骨複合体損傷 ・ ドゥケルバン病 ・ 円回内筋症候群	
14	肘・前腕のスポーツ障害②		・ 橈尺側手根伸筋腱鞘炎 ・ 前腕コンパートメント症候群	
15	症例検討		事例を用いて評価 - 問題点の把握、治療を経験する	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
外来整形外科のためのスポーツ外傷・障害の理学療法 （医歯薬出版株式会社）		期末試験	100%	教科書を中心に進行するため、予習しておくこと。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
中枢神経疾患の理学療法Ⅰ		理学療法学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	菅原 健太郎
授 業 の 概 要				
脳血管障害および脊髄損傷に対する理学療法を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
病態と症状、リスク管理について説明できる。 基本的評価、理学療法が実践できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。			
時間外に必要な学修				
解剖生理学，神経学の復習。				
回	テ ー マ	内 容		
1	頭部画像診断（1）	脳画像の基礎		
2	頭部画像診断（2）	脳画像の基礎		
3	頭部画像診断（3）	脳領域の機能解剖と脳画像上の同定法		
4	頭部画像診断（4）	脳領域の機能解剖と脳画像上の同定法		
5	頭部画像診断（5）	脳萎縮と認知症の画像の見方		
6	頭部画像診断（6）	脳萎縮と認知症の画像の見方		
7	頭部画像診断（7）	虚血性脳血管障害の画像		
8	頭部画像診断（8）	出血性脳血管障害の画像		
9	身体機能の評価（1）	ブルンストロームステージの体験実習		
10	身体機能の評価（2）	SIASの体験実習		
11	身体機能の評価（3）	NIHSSの体験実習		
12	身体機能の評価（4）	FMAの体験実習		
13	身体機能の評価（5）	JSS、MAS、mRS、その他の評価の説明		
14	身体機能の評価（6）	高次脳機能障害		
15	急性期のリハビリテーション	急性期のリスク管理と介入方法		

回	テ ー マ	内 容		
16	回復期のリハビリテーション（１）	回復期の介入方法と歩行		
17	回復期のリハビリテーション（２）	回復期の介入方法と歩行		
18	回復期のリハビリテーション（３）	回復期の介入方法と歩行		
19	生活期のリハビリテーション	生活期の介入方法		
20	まとめ	復習		
21	脊髄損傷（１）	発症機序、疫学や分類など		
22	脊髄損傷（２）	発症機序、疫学や分類など		
23	脊髄損傷（３）	症状や合併症など		
24	脊髄損傷（４）	症状や合併症など		
25	脊髄損傷（５）	急性期のリスク管理、合併症に対する管理など		
26	脊髄損傷（６）	急性期のリスク管理、合併症に対する管理など		
27	脊髄損傷（７）	床上動作、移乗動作など		
28	脊髄損傷（８）	床上動作、移乗動作など		
29	脊髄損傷（９）	診断と治療の概要		
30	まとめ	復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ コツさえわかればあなたも読める リハに役立つ脳画像 改訂第2版 (MEDICAL VIEW) ・ 脊髄損傷理学療法マニュアル 第3版 (文光堂)		期末試験	100%	講義と演習を混ぜながら実施する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
中枢神経疾患の理学療法Ⅱ		理学療法学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	村上 匡司
授 業 の 概 要				
主要な神経筋疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症など）について、疾患の概要及びリハビリテーションの方法を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ 主要な神経筋疾患の病態および症状、合併症などを説明できる。 ・ 主要な神経筋疾患に対する基本的理学療法および運動療法を実施できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。			
時間外に必要な学修				
解剖生理学，神経学の復習。				
回	テ ー マ		内 容	
1	パーキンソン病（1）		パーキンソン病の病態と治療	
2	パーキンソン病（2）		パーキンソン病の評価と理学療法	
3	パーキンソン病（3）		ケーススタディをもとに学生カルテの作成（実践）	
4	脊髄小脳変性症（1）		脊髄小脳変性症の病態と治療	
5	脊髄小脳変性症（2）		脊髄小脳変性症の評価と理学療法	
6	脊髄小脳変性症（3）		脊髄小脳変性症の評価、理学療法（実践）	
7	筋萎縮性側索硬化症（1）		筋萎縮性側索硬化症の病態と治療	
8	筋萎縮性側索硬化症（2）		筋萎縮性側索硬化症の評価と理学療法	
9	筋萎縮性側索硬化症（3）		ケーススタディをもとに学生カルテの作成（実践）	
10	多発性硬化症（1）		多発性硬化症の病態と治療	
11	多発性硬化症（2）		多発性硬化症の評価と理学療法	
12	多発性硬化症（3）		ケーススタディをもとに学生カルテの作成（実践）	
13	ギラン・バレー症候群（1）		ギランバレー症候群の病態と治療	
14	ギラン・バレー症候群（2）		ギランバレー症候群の評価と理学療法	
15	ギラン・バレー症候群（3）		ケーススタディをもとに学生カルテの作成（実践）	
教科書・教材			評価基準	評価率
神経理学療法学（医歯薬出版株式会社）			期末試験	100%
				教科書に則って進める

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
内部障害の理学療法Ⅰ		理学療法学科／3年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	宮内 貴志子
授 業 の 概 要				
呼吸器疾患における病態生理と理学療法の目的と実際について理解する。 呼吸評価と理学療法の目的と効果を学習する。				
授業終了時の到達目標				
呼吸器の機能、呼吸器疾患の病態を理解する。 呼吸器機能評価、呼吸器の障害に対する理学療法について理解する。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験 症例を通じてイメージしやすく展開する。			
時間外に必要な学修				
呼吸に関する解剖学と生理学や姿勢や胸郭の動きに関する運動学について復習する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	呼吸器の解剖と運動	呼吸器の解剖 上気道 下気道 の構造と位置関係		
2	呼吸運動の仕組み	換気のメカニズムと換気障害 換気とガス交換、酸素分圧について		
3	呼吸の生理学 ガス交換	血液ガス検査、呼吸不全の分類とメカニズム 体位による換気と血流について		
4	胸部画像診断	胸部レントゲンについて 体表面と画像診断、聴診と画像診断を考察する		
5	排痰法（無気肺）	画像診断（無気肺と肺水腫など） 肺区域と体位ドレナージ		
6	喀痰吸引	喀痰吸引方法と評価について		
7	呼吸器疾患の病態	閉塞性換気障害と拘束性換気障害 急性呼吸不全と慢性呼吸不全		
8	酸素療法	酸素療法に関する方法や効果、適応とリスク管理		
9	慢性閉塞性換気障害の評価	特徴的な身体所見と画像所見 病気分類		
10	慢性閉塞性換気障害の運動療法	コンディショニング ADL指導 レジスタンストレーニング		
11	慢性閉塞性換気障害の生活指導	ADL評価とADL指導 外来患者の対応		
12	拘束性換気障害	間質性肺炎の病態と所見 評価 理学療法介入		
13	人工呼吸管理	人工呼吸管理の目的と効果 NPPVの適応と禁忌		
14	集中治療室での呼吸器管理	集中治療室内の人工呼吸器装着患者の管理		
15	呼吸器がん周術期の理学療法	呼吸器がんの病態 周術期の理学療法について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
病気がみえるvol.4 呼吸器 （メディクメディア） イラストでわかる内部障害 （医歯薬出版）		期末試験	100%	呼吸器系の 解剖・生理学を復 習しておくこと

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
内部障害の理学療法Ⅱ		理学療法学科／2年	2025／後期	講義	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	1単位（30時間）	必須	中嶋 志保	
授 業 の 概 要					
主に虚血性心疾患における病態生理および治療の目的と流れを学習する。					
授業終了時の到達目標					
・ 典型的な心電図波形が示す不整脈について説明できる。 ・ 急性心筋梗塞の病態およびリハビリテーションの流れが説明できる。 ・ 各期のリスクおよびリハビリテーションの目標を挙げることができる。					
実務経験有無		実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験 臨床で実践した知識と技術をいかし授業を展開する。				
時間外に必要な学修					
解剖生理学、リハビリテーション内科学のテキストや資料を用いて、該当範囲を予習しておく。					
回	テ ー マ		内 容		
1	循環器系の解剖生理		心臓の構造、冠動脈の灌流領域 心周期		
2	心電図の基礎		心臓の電気的活動と心電図 正常心電図の条件		
3	心電図の判読①		刺激の生成異常と不整脈		
4	心電図の判読②		刺激の伝導異常と不整脈		
5	心電図の判読③		不整脈の危険度 不整脈の治療		
6	虚血性心疾患の病態と治療		狭心症、急性冠症候群 病態、症状と身体所見、医学的検査、治療		
7	虚血性心疾患のリハビリテーション①		急性期運動療法 進行基準		
8	虚血性心疾患のリハビリテーション②		回復期運動療法		
9	心不全の病態と治療 心不全のリハビリテーション		心不全の骨格筋機能障害 理学療法評価、運動療法		
10	運動耐容能の評価と運動処方		心肺運動負荷試験と運動処方		
11	心疾患のADL、患者教育		ADL評価、ADL指導、栄養指導、運動指導		
12	症例検討①		医学的情報、検査値の解釈		
13	症例検討②		虚血性心疾患の評価、治療に至るまでの考え方		
14	血管疾患の病態と治療		大血管疾患、末梢閉塞性動脈疾患		
15	まとめ		症例報告を用いて学習内容を整理する		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
・ PT・OT入門 イラストでわかる内部障害 （医歯薬出版） ・ 病気がみえるVol.2 循環器 （メディクメディア）			期末試験	100%	分からないことは その週で解決する こと

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
内部障害の理学療法Ⅲ		理学療法学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	村上 匡司
授 業 の 概 要				
・ 各疾患の病態を理解する ・ 生理学的知識に則り運動療法や予防方法などについて考察する				
授業終了時の到達目標				
・ 各疾患について基本的内容を理解できる ・ 運動処方の選定ができる				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。			
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえ教科書や資料等を用いて予習をする。				
回	テ ー マ		内 容	
1	代謝障害の解剖生理		解剖と生理機能、生活習慣病の概要について	
2	糖尿病の知識（概要）		糖尿病概略、合併症について	
3	糖尿病の診断方法		糖尿病の診断、境界型、疫学、インスリン抵抗性について	
4	糖尿病の検査（1）		糖尿病診断のための検査、動脈硬化について	
5	糖尿病の検査（2）		糖尿病の管理に用いられる検査、合併症について	
6	糖尿病の薬物療法		治療の基本について、低血糖、シックデイ、経口薬療法と注射薬療法など	
7	糖尿病の運動療法（1）		運動と生活活動との違い、NEAT、運動の効果など	
8	糖尿病の運動療法（2）		評価、合併症の評価など	
9	糖尿病の運動療法（3）		末梢動脈疾患の評価、身体活動量の評価など	
10	糖尿病の運動療法（4）		運動療法の目的、強度や種類、頻度と時間、注意点など	
11	糖尿病の運動療法（5）		まとめ、国家試験問題の解説、運動処方の立案について	
12	糖尿病の運動処方立案（1）		処方計画の立案（グループ学習、発表）	
13	糖尿病の運動処方立案（2）		処方計画の立案（グループ学習、発表）	
14	糖尿病の運動処方立案（3）		処方計画の立案（グループ学習、発表）	
15	糖尿病の運動処方立案（4）		処方計画の立案（グループ学習、発表）	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・イラストでわかる内部障害（医歯薬出版株式会社）		期末試験	100%	Metsの計算はできるようにしておくこと

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
発達障害の理学療法		理学療法学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	宮内 貴志子
授 業 の 概 要				
小児期の特性から発達障害の特徴及びその理学療法を理解する。				
授業終了時の到達目標				
・発達障害の病態と障害が理解できる。 ・発達障害の理学療法について思考できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の経験 成人との違いを画像を多く活用しイメージしやすく展開する。			
時間外に必要な学修				
人間発達で学んだ反射や姿勢反応・平衡反応について復習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	発達障害の理学療法とは		正常発達と原始反射と姿勢反応	
2	正常発達について		粗大運動発達と反射の出現	
3	脳性麻痺（総論）		脳性麻痺の定義と分類	
4	脳性麻痺（痙直型両麻痺）		痙直型両麻痺の特徴と理学療法	
5	脳性麻痺（痙直型両麻痺）		痙直型両麻痺の特徴と理学療法	
6	脳性麻痺（痙直型四肢麻痺）		痙直型四肢麻痺の特徴と理学療法	
7	脳性麻痺（痙直型四肢麻痺）		痙直型四肢麻痺の特徴と理学療法	
8	脳性麻痺（痙直型片麻痺）		痙直型片麻痺の特徴と理学療法	
9	脳性麻痺（アテトーゼ型）		アテトーゼ型の特徴と理学療法	
10	重度心身障害児		重度心身障害分類 合併症を理解する 在宅での生活を想起する	
11	二分脊椎		二分脊椎の病態分類 麻痺症状 合併症の管理	
12	神経筋疾患 （筋ジストロフィー DMD）		遺伝性疾患と神経筋疾患 デュシャンヌ型筋ジストロフィー症の病態と理学療法	
13	神経筋疾患 （その他の筋ジストロフィー）		遺伝性疾患と神経筋疾患 その他の疾患	
14	ダウン症候群		ダウン症の理学療法について	
15	まとめ		まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストでわかる 小児理学療法 （医歯薬出版）		期末試験	100%	原始反射や姿勢反 応について理解し ておきましょう

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
ペーパーペーシェントセミナー		理学療法学科／3年	2025／前期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	横川 光代・中嶋 志保
授 業 の 概 要				
脳血管障害、運動器疾患における病態把握のための評価思考過程を画像所見や初期情報から導き出し、一連の検査項目の選定と実施までの能力を身に着ける。				
授業終了時の到達目標				
事例的疾患に関してその病態の理解、評価、評価の解釈、評価に基づいた治療計画など一連の思考ができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 急性期から訪問リハまでの理学療法業務で培った技術を伝える。			
時間外に必要な学修				
疾患を理解するための解剖学、生理学的知識、また疾患について復習すること。 発表時は前もってプレゼン準備をする。				
回	テ ー マ		内 容	
1	症例提示①		症例理解に必要な知識	
2	疾患の理解		グループ内レクチャー	
3	主観的評価（問診）の計画		初期情報から問診項目を列挙する	
4	主観的評価（問診）の実施 評価項目の列挙		問診実施と記録 追加情報から仮説をたて、評価項目を列挙する	
5	症例評価の準備		評価手技の確認 リスクの確認	
6	症例評価の実施		評価の実施（発表）	
7	症例評価の実施		評価の実施（発表）	
8	評価結果の記録 追加情報の列挙		評価結果の記録 追加の情報収集項目を列挙	
9	追加情報の収集		評価の実施	
10	ICF作成		評価結果の統合と解釈 ICF作成	
11	ICF～プログラム立案まで		ゴール設定とその根拠 文献検索	
12	ICF～プログラム立案まで		治療プログラムの立案 文献検索	
13	症例報告		サマリー作成	
14	症例報告		サマリー発表	
15	まとめ		脳血管障害に対する理学療法過程について	
16	症例提示②		疾患に関する知識の学習	
17	基礎情報から障害像を捉える		・ 症例から模擬患者の障害像を理解 ・ 予後含めて回復の程度やゴールの仮説を立てる	

回	テ ー マ	内 容		
18	初期情報から主観的評価（問診）の 列挙	事前情報から仮説を立て、必要な問診項目を列挙する		
19	主観的評価 実技	問診の実施		
20	評価項目の列挙・収集	・ 問診から仮説を立て、評価項目を列挙する ・ 情報提示		
21	評価実技	計画した評価を効率よく実施する		
22	評価実技	計画した評価を効率よく実施する		
23	I C F 作成	・ 統合と解釈（I C Fにて情報の整理） ・ 追加情報の列挙		
24	追加情報の列挙・収集	・ I C Fから不足している情報を整理する ・ 追加情報の収集		
25	評価実技	計画した評価を効率よく実施する		
26	問題点抽出からプログラム立案まで	・ I C Fの再考 ・ 評価結果との関連性を説明		
27	問題点抽出からプログラム立案まで	・ ゴール設定、治療プログラム立案 ・ 文献検索		
28	症例報告	サマリー作成		
29	症例報告	症例発表		
30	まとめ	運動器疾患の理学療法		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 病気がみえるvol.7 脳・神経 （メディックメディア） ・ 運動器疾患の治療とリハビリテーション手術・保存療法 とリハビリプログラム（メジカルビュー） ・ ここがポイント！整形外科疾患の理学療法第3版 （金原出版）		脳卒中）	提出物	自分の考えを積極的に表出すること
			発表、授業態度	
		運動器疾患）	提出物	
			発表・授業態度	
			60%	
			40%	
			60%	
			40%	

地域理学療法学

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
地域理学療法学		理学療学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	坂口 千恵美
授 業 の 概 要				
対象者の機能的な改善、活動・参加レベルへの結びつきを図るとともに、地域（在宅）で安心してその人らしい暮らしができるよう支援し、地域住民がともにクラス体性づくりをするという視点が重要である。				
授業終了時の到達目標				
・実習場面で施設の概要・目的などを理解した状態で臨むことができる。 ・訪問リハビリ、デイサービス、デイケア、老人施設などで働くことができる。 ・小児・老人・身障者の日常生活での問題点を解決する社会資源を理解できる。 ・地域包括ケアシステムを理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 訪問リハビリ、介護老人保健施設、デイサービス、介護老人福祉施設での経験をいかす			
時間外に必要な学修				
ボランティアへの積極的な参加や地域活動への興味をもつこと。				
回	テ ー マ	内 容		
1	総論	地域リハビリテーションの概念 地域理学療法概念		
2	地域リハビリテーションの関連制度と関連法規	医療保険制度・介護保険制度・障害者総合支援法・バリアフリー法・地域における社会資源・地域包括システム		
3	地域理学療法の実実際① 訪問系理学療法	訪問系の理学療法士に求められる役割 訪問理学療法での評価・治療		
4	地域理学療法の実実際② 通所系理学療法	通所系理学療法目的 通所系理学療法の評価・治療		
5	地域理学療法の実実際③ 施設系理学療法	介護老人保健施設における理学療法 特別養護老人ホームにおける理学療法		
6	地域理学療法の実実際④ 終末期における理学療法	終末期における疾患・終末期と終の棲家 終末期における理学療法の実実際		
7	予防分野のリハビリテーション① サルコペニアと介護予防	サルコペニアの理解 介護予防教室運営のコツと実践例		
8	予防分野のリハビリテーション② 認知予防	認知症予防の実実際 認知症予防教室運営について		
9	予防分野のリハビリテーション③ 転倒予防	転倒予防の実実際 転倒予防教室運営について		
10	行政における療法士の役割	行政療法士の役割機能 地域包括ケアにおける行政療法士の役割		
11	レクリエーション研究①	障害高齢者、健康予防教室、年少児保育、学童保育などにおける理学療法士としてのレクリエーションを考える		
12	レクリエーション研究②	発表準備		
13	レクリエーション発表①	学生を対象者に見立て、目的に沿った内容、発表を行う。 また対象者としての経験をを行い評価を行う。		
14	レクリエーション発表②	学生を対象者に見立て、目的に沿った内容、発表を行う。 また対象者としての経験をを行い評価を行う。		
15	認知症サポーター研修	高松市の保健師により認知症サポーター研修を受講し、認知症サポーターとなる。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
授業配布資料		期末試験 確認テスト・課題	80% 20%	提出物は〆切厳守

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活環境学Ⅰ		理学療法学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	坂口 千恵美
授 業 の 概 要				
・日本における障害者や高齢者が安全に、安心して生活できるよう、理学療法士として助言や情報の提供を上手くできるようになる。 ・患者を取り巻く環境について、社会資源や福祉用具について学ぶ。 ・毎時間、復習を目的とした小テストを実施する。				
授業終了時の到達目標				
・高齢者や障害者の生活環境について意識づけできる。 ・保健医療福祉を必要としている他者にうまく伝授できる。 ・障害者・高齢者の福祉用具を用いた生活環境を整えることが出来る。 ・国家試験の福祉用具、介護保険問題を解けるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 福祉住環境コーディネーター1級・福祉用具プランナー・介護支援専門員の実務をいかす			
時間外に必要な学修				
・小テスト・確認テストの対策や知識の定着の為、毎回復習を行う。 ・参考書の熟読、授業資料の整理を行う。				
回	テ ー マ		内 容	
1	生活環境学の概念と障害の捉えかた		ICIDHとICFの理解 環境因子について	
2	日本における生活環境の特徴と課題		日本家屋が高齢者、障害者に及ぼす影響 高齢化率と日本社会について	
3	障害者福祉施策の概要		バリアフリーとユニバーサルデザインを考える	
4	社会保障について①		国民皆保険と国民皆年金について	
5	社会保障について②		介護保険について①	
6	社会保障について③		介護保険について②	
7	福祉用具（移動補助機器）①		つえ・歩行器・歩行車	
8	福祉用具（移動補助機器）②		車いす	
9	福祉用具（移動補助機器）③		疾患、障害別による移動補助機器を考える	
10	福祉用具（移乗機器）①		リフトとスリング、トランスファー機器	
11	福祉用具（移乗機器）②		疾患、障害別による移乗機器を考える	
12	福祉用具（生活関連機器）①		ベッド周辺機器、排泄用具他	
13	福祉用具（生活関連機器）②		疾患、障害別による生活関連機器を考える	
14	まとめ		知識の定着と期末試験・国家試験の対策問題の実施	
15	認知症サポーター研修		高松市の保健師により認知症サポーター研修を受講し、 認知症サポーターとなる。	
教科書・教材		評価基準		評価率 その他
配布資料		期末試験 確認テスト		80% 20% 興味を持って授業 へ参加すること

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活環境学Ⅱ		理学療法学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	坂口 千恵美
授 業 の 概 要				
症例を通して、在宅生活における環境設定を考える。				
授業終了時の到達目標				
症例の全体像より、必要な評価、アプローチを考えることができるようになる。 在宅生活を行う上での住宅における問題点の抽出とそれに対する改善策を立案することができる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修				
小テスト・確認テストの対策や知識の定着の為、毎回復習を行う。 参考書の熟読、授業資料の整理を行う。				
回	テ ー マ		内 容	
1	日本における生活環境の特徴と課題		日本家屋の問題	
2	生活環境整備に関する法的制度		介護保険その他の諸制度と生活環境	
3	障害者について		障害者手帳など	
4	生活環境の基本①		段差・スペース・床材	
5	生活環境の基本②		手すりの取り付け 建具への配慮	
6	生活環境の基本③		玄関の整備 福祉用具の活用	
7	生活環境の基本④		高齢者、障害者向けの環境整備 トイレの基本・トイレの福祉用具	
8	生活環境の基本⑤		台所、食堂の環境整備・浴室、脱衣室の環境整備・廊下、 階段の環境整備	
9	疾患別環境整備（CVA）		片麻痺患者の環境整備	
10	脊髄損傷の生活環境 1		実際に受傷された方（田村さん）に来校して頂き、現状を 聞かせて頂く（OTと合同授業）	
11	疾患別環境整備（進行性疾患）		パーキンソン、ALSなど進行性疾患患者の住環境	
12	疾患別環境整備（整形疾患・脊損）		RA、OA疾患患者の住環境 脊損・頸損患者の住環境	
13	脊髄損傷の生活環境2		頸損・脊損の方6名来校。実際の生活の状況や身体能力を 見せて頂く。（OTとの合同授業）	
14	脊髄損傷の生活環境3		頸損・脊損の方6名来校。実際の生活の状況や身体能力を 見せて頂く。（OTとの合同授業）	
15	まとめ		期末試験対策	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
シンプル理学療法学作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト（南江堂）		期末試験 確認テスト	80% 20%	興味を持って授業 へ参加すること

臨床実習

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
見学実習		理学療法学科／1年	2024／後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
9時間	5回	1単位（45時間）	必須	坂口 千恵美
実 習 の 概 要				
学校が連携している臨床経験5年以上の理学療法士が勤務する医療施設または介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
授業終了時の到達目標				
・保健、医療、福祉の各分野の職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持った行動がとれる。 ・臨床実習をとおして、自己の理学療法士としての自覚を高めることができる。 ・実践的コミュニケーション能力の習得方法を学ぶ。 ・模倣、実践、振り返りの中で習得方法を学ぶ。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験を基に、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修				
実習の目的、各自の目標を明確にして臨み、毎日のまとめと予習を行うこと。				
実 習 内 容				
1. 各教育領域における実習内容				
1) 情意領域の実習内容				
・理学療法士による実践的コミュニケーションを体感する。 ・患者様の命と人生を左右する臨床現場の中で、年代層や生活背景、人格や会話力など多種多様なケースに対し、専門家としての適切な振る舞いや対応、会話などを見学する。 ・早期より地域に目を向け、通所もしくは訪問リハビリテーションの見学などを通じて、地域包括ケアシステムにおける理学療法士や関連専門職の役割を理解する。 ・診療補助体験や、患者像・障害像の把握を目的とした情報収集や問診等の体験を通じて、専門家としてのあるべき姿に気づく。				
2) 認知領域の実習内容				
・理学療法士が、「どんな障害を対象に、どのような方法で、何を目的に、どのような工夫や注意をしながら」理学療法を実施しているかを自ら聞きながら見学する。 ・臨床実習指導者にヒントを与えてもらい、学内で学んだ知識を想起する。				
3) 精神運動領域の実習内容				
・評価学で学んだ形態測定、関節可動域測定を臨床実習指導者の指示監督のもと経験する。 ・コミュニケーション論等で学んだ面接相談技術を用いて、臨床実習指導者の指示監督のもと医療面接を経験する。				
2. 目標達成のため教育ツールを使用する				
1) 目標達成のため以下の①～④の教育ツールを使用する				
①デイリーノート ②自己研鑽ノート ③チェックリスト				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・臨床実習教育の手引き ・PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下の介入編		総括評定 課題	80% 20%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価実習Ⅰ		理学療法学科／2年	2025／前期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
9時間	10回	2単位（90時間）	必須	坂口 千恵美
授 業 の 概 要				
学校が連携している臨床経験3年以上の理学療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
授業終了時の到達目標				
・対象者に関する情報収集や問診から、その抱える問題、ディマンド、ニーズを把握すると共に、検査測定によって得られたデータの統合作業を臨床実習指導者の指導の下で繰り返し行い、認知的スキル（情報処理過程）を学ぶ。 ・受動的学習から能動的学習へとシフトさせることを学ぶ。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験を基に、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修				
翌日の実習計画を踏まえ、教科書や資料などを参考に事前準備を行う。				
回	テ ー マ		内 容	
1. 各教育領域における実習内容				
1) 情意領域の実習内容				
・この過程を通じ、多くの気づきを得ることで、今までの受動的学習から患者志向の能動的学習へシフトさせる。				
2) 認知領域の実習内容				
・理学療法士が実践している危険の予見や禁忌事項の確認といったリスク管理について考える。 ・患者情報を既存の資料や、直接問診、間接問診によって収集したデータと、検査測定を通して得たデータを指導者の詳細な解説を受けながら統合を繰り返し模倣することで情報処理過程を学ぶ。				
3) 精神運動領域の実習内容				
・評価学で学んだ徒手筋力検査、反射検査、筋緊張検査等を臨床実習指導者の指示監督のもと経験する。 ・臨床実習指導者の指示監督下での医療面接で、患者の生活状況や家族、社会での役割、かかえる問題と患者のディマンドやニーズを理解し患者像を把握する。				
2. 目標達成のため教育ツールを使用する				
1) 目標達成のため以下の①～⑤の教育ツールを使用する。				
①デイリーノート ②自己研鑽ノート ③チェックリスト ④学生カルテ ⑤学生評価実施表				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・臨床実習教育の手引き ・PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下の介入編		総括評定 課題	80% 20%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価実習Ⅱ		理学療法学科／2年	2025／後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
9時間	10回	2単位（90時間）	必須	坂口 千恵美
授 業 の 概 要				
学校が連携している臨床経験3年以上の理学療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
授業終了時の到達目標				
・評価を通して得られた対象者のデータを学生自身が指導者と何度もディスカッションを重ねながら処理し、認知的スキルを高める方法を学ぶ。 ・学生は認知領域スキルを想起レベルから解釈レベルへ、精神運動領域スキルを模倣レベルからコントロールレベルへ引き上げる学習方法を学ぶ。 ・「経験→振り返り→気づき→別の経験の中での実践」といった取り組みの中で実践力を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験を基に、的確に学生をフォローする。			
時間外に必要な学修				
翌日の実習計画を踏まえ、教科書や資料などを参考に事前準備を行う。				
回	テ ー マ		内 容	
1. 各教育領域における実習内容				
1) 情意領域の実習内容 ・この過程を経ることにより、「できること」が増え、「やりたいこと」が表出される良循環を形成する。				
2) 認知領域の実習内容 ・評価実習Ⅰで経験した認知的スキルを基に、再度患者の情報、検査結果等のデータ処理過程を繰り返し経験することで、認知領域を想起レベルから解釈レベルへと引き上げる。 ・検査を通して得たデータの処理過程を、学生自身が指導者と何度もディスカッションを重ねながら患者像・障害像の把握過程を積み重ね、データの必要性、関連性、重要性の統合体験を通して認知領域の目標達成に臨む。				
3) 精神運動領域の実習内容 ・精神運動領域を模倣からコントロールレベルへ引き上げるトレーニングを臨床実習指導者の指示監督下で経験を積む。				
2. 目標達成のため教育ツールを使用する				
1) 目標達成のため以下の①～⑤の教育ツールを使用する。				
①デイリーノート ②自己研鑽ノート ③チェックリスト ④学生カルテ ⑤学生評価実施表				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・臨床実習教育の手引き ・PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下の介入編		総括評定 課題	80% 20%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
総合臨床実習Ⅰ		理学療法学科／3年	2025／前期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
9時間	40回	8単位（360時間）	必須	横川 光代
授 業 の 概 要				
学校が連携している施設において、臨床実習指導者講習会修了者である臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
授業終了時の到達目標				
・実践的スキルを「複雑な障害像を呈しない一般的な疾患に対し、ある程度の助言・指導のもとに理学療法が行えるレベル」まで引き上げる。 ・認知的スキルのトレーニングを積み重ね、解決策を講じる意思決定過程を指導者とのディスカッションの中からつかみ、知識の構築化を学ぶ。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験を基に、的確に学生をフォローする。			
時間外に必要な学修				
翌日の計画を踏まえ教科書や資料等を参考に事前準備と予習をする				
内 容				
1. 各教育領域における実習内容				
1) 情意領域の実習内容 ・学生自らが、能動的に働き、数多くの体験を通じて、対象者の抱える問題を理学療法という手段で解決できることを体感または実感する。 ・意欲を湧きあがらせ、専門職としての自覚と患者志向の考えを確かなものにする。				
2) 認知領域の実習内容 ・評価実習で経験した認知的スキル（結果の解釈レベル）をさらに積み重ね、解決策（治療計画の意思決定といった情報処理過程を、指導者とのディスカッションの中からつかみ、知識の関連づけと構造化を学ぶ。 ・認知的スキルを解釈レベルから問題解決レベルへと進める。				
3) 精神運動領域の実習内容 ・評価学で学んだ反射検査、筋緊張検査、感覚検査、協調性検査等を ・模倣からコントロールレベルへシフトさせるトレーニングを臨床実習指導者の指示監督下で経験を積む。				
2. 目標達成のため教育ツールを使用する				
1) 目標達成のため以下の①～⑥の教育ツールを使用する。 ①デیلیーノート ②自己研鑽ノート ③チェックリスト ④学生カルテ ⑤学生評価実施表 ⑥レジュメ				
2) 実習終了後上記⑥を用いての症例報告会を学内にて実施する。				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・臨床実習教育の手引き ・PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下の介入編		総括評定 実習後OSCE	80% 20%	実習前後に客観的臨床能力試験を行う。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
総合臨床実習Ⅱ		理学療法学科／3年	2025／後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
9時間	40回	8単位（360時間）	必須	横川 光代
授 業 の 概 要				
学校が連携している施設において、臨床実習指導者講習会修了者である臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
授業終了時の到達目標				
・実践的スキルを「複雑な障害像を呈しない一般的な疾患に対し、ある程度の助言・指導のもとに理学療法が行えるレベル」まで引き上げる。 ・認知的スキルのトレーニングを積み重ね、解決策を講じる意思決定過程を指導者とのディスカッションの中からつかみ、知識の構築化を学ぶ。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験を基に、的確に学生をフォローする。			
時間外に必要な学修				
翌日の計画を踏まえ教科書や資料等を参考に事前準備と予習をする				
内 容				
1. 各教育領域における実習内容				
1) 情意領域の実習内容				
・学生自らが、能動的に働き、数多くの体験を通じて、対象者の抱える問題を理学療法という手段で解決できることを体感または実感する。 ・意欲を湧きあがらせ、専門職としての自覚と患者志向の考えを確かなものにする。				
2) 認知領域の実習内容				
・評価実習で経験した認知的スキル（結果の解釈レベル）をさらに積み重ね、解決策（治療計画の意思決定といった情報処理過程を、指導者とのディスカッションの中からつかみ、知識の関連づけと構造化を学ぶ。 ・認知的スキルを解釈レベルから問題解決レベルへと進める。				
3) 精神運動領域の実習内容				
・評価学で学んだ反射検査、筋緊張検査、感覚検査、協調性検査等を ・模倣からコントロールレベルへシフトさせるトレーニングを臨床実習指導者の指示監督下で経験を積む。				
2. 目標達成のため教育ツールを使用する				
1) 目標達成のため以下の①～⑥の教育ツールを使用する。				
①デイリーノート ②自己研鑽ノート ③チェックリスト ④学生カルテ ⑤学生評価実施表 ⑥レジュメ				
2) 実習終了後上記⑥を用いての症例報告会を学内にて実施する。				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・臨床実習教育の手引き ・PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下の介入編		総括評定 実習後OSCE	80% 20%	実習前後に客観的臨床能力試験を行う。

専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ
理学療法学科

令和6年度

授 業 概 要

2024年4月 発行

発 行 者 専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ
〒761-8056 香川県高松市上天神町722-1
TEL:087-815-3300 FAX:087-815-2111
URL:<http://www.anabuki-college.net/ark/>